

令和2年度（2020年度）事業報告

自 令和2年（2020年）4月1日

至 令和3年（2021年）3月31日

公益財団法人札幌市公園緑化協会

事業運営の概要

当協会の使命と目的の達成のため、公園施設での安全・安心の確保を基本として、利用動向を的確に把握し、都市緑化の推進、公園緑地等の良好な管理と利活用促進等を通じて、不特定多数の方々に利益を還元する公益性の高い事業の執行に努めてきました。

こうした中、指定管理の最終年度を迎えた旭山記念公園は、これまでの実績や提案等が評価され、再選定されました。

また、令和2年1月末に新型コロナウイルスが日本国内で確認された後、札幌市の指示のもと感染拡大防止対策として、当協会が管理する公園・施設においても、花見期間では公園への立入制限の他、有料運動施設、噴水、炊事広場や駐車場などの公園施設を閉鎖するとともに、予定していた事業も中止又は縮小せざるをえなくなった結果、来園者等や収入金額が大幅に減じることとなりました。しかしながら閉鎖、中止に伴う支出減や、札幌市からの補填もあり損失は最小限となりました。

会計別事業において、公1事業では、札幌市都市緑化基金の運用益活用等による民有地緑化と緑化普及啓発事業のほか、ガーデニングボランティアの養成・ネットワーク化の推進を図りました。また、基金の造成について、長年の目標でありました5億円に達することができましたが、次の目標額を明確にすることにより、円滑な運営につなげたく、新たに目標を6億円に設定しました。

公2事業では、新たに5年間の指定管理期間が始まった「札幌市豊平川さけ科学館」をはじめ、全公園・施設では新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に取り組んだ上で、公園・施設の魅力を最大限に発揮すべく管理運営に努めました。

緑化植物園では緑の相談や様々な講習会を実施し、園芸知識・技術の向上、緑化の普及啓発を図りました。公園内の運動施設では、安全で快適な利用環境を提供するため、各種運動教室や運動クラブの運営など、施設を活用した市民の健康増進、競技力の向上、スポーツ振興などに取り組みしました。

国営滝野すずらん丘陵公園では、運営維持管理業務の代表団体として全体のマネジメント及び各事業の企画立案・実施のほか、園内施設等を適正に管理しました。

収益事業については、公益事業の原資となる営業収益の確保のため、季節感と付加価値のある植物販売、ニーズや公園特性に応じた商品の提供など、お客様サービスの向上に努めました。

法人運営全体としては、札幌市の出捐金割合の見直し目標のため、今年度は200万円を返還（寄付）しました。安定的な事業展開を図るための組織改編、人材育成の推進やコンプライアンスの徹底、安全管理体制の充実、一般事業主行動計画策定等の労働環境整備などにより、運営管理の改善強化を図りました。

公 1 都市緑化基金等事業

札幌市都市緑化基金への募金等造成状況

令和3年3月31日現在

区 分		昭和59年度～ 令和元年度	令和2年度	累 計
(財)都市緑化基金助成		3,000,000	0	3,000,000
札幌市補助金		459,441,294	9,386,000	468,827,294
	助成等	287,174,944	0	287,174,944
	一般募金	172,266,350	9,386,000	181,652,350
協会への寄付金		29,840,438	181,810	30,022,248
	個 人	1,397,934	10,000	1,407,934
	募金箱	4,298,168	99,680	4,397,035
	企業・団体	13,864,336	72,130	13,936,466
	協会繰入	10,280,000	0	10,280,000
総 計		492,281,732	9,567,810	501,849,542

1 植樹等による民有地緑化事業

(1) 苗木の配布

植樹機会の誘引など民有地緑化の推進を図るため、市民の慶事に際してライラック 74 本、シラタマミズキ 44 本のほか、中道リース株式会社寄贈のエゾヤマザクラ 50 本の合計 168 本の苗木を配布した。

(2) 壁面緑化の推進

塀や建物を植物で覆うことにより、民有地緑化の推進を図るため、札幌市内の家庭及び事業所等に合計 7 件 84 株(補助は半数)のナツツタの苗を配布した。

2 緑化推進に関する普及啓発事業

(1) キラリ！さっぽろ公園 30 選

緑化意識の高揚と啓発を図るため、札幌市内の公園・緑地で撮影した緑や花、憩いのひととき、自然とのふれあい等がテーマの WEB フォトコンテストを実施し、グランプリ 1 点、準グランプリ 3 点、キラリ賞 27 点を選出し、ホームページ上で公開した。

応募総数 198 人 638 点

(2) 緑の絵コンクール

次代を担う子どもたちがみどりに親しみと興味を持ち、理解を深めてもらうため、札幌市内の小・中学生を対象とした絵画コンクールを実施した。

参加学校数 65 校 応募総数 354 点

入賞作品の展示

期間:令和 2 年 11 月 20 日～11 月 24 日(5 日間)

場所:札幌地下街オーロラコーナー

(3) 園芸等に関する冊子の発行

北国札幌で植物を扱う上での特徴や花や緑にふれる楽しさ等、園芸に関する知識や技術について解説する冊子を作成・配布した。

タイトル:すくすくみどりNo.29「おうち時間を楽しむキッチンガーデン～おいしい緑を育てよう～」

内 容:コロナ禍において屋外での活動を自粛する中、少しでも緑に触れる機会となるよう、ベランダや室内で育てることができるキッチンガーデンを取り上げ解説した。

3 都市緑化サポーター養成事業

さっぽろまちづくりガーデニング講座

花や緑を通して地域や社会に貢献できるボランティア、都市緑化のサポーターの養成を目的に、まちづくりや園芸等の知識や技術を学ぶ全 19 回の連続講座を 24 名の受講者でスタートしたが、2 回目の講義後、北海道・札幌市緊急共同宣言の自粛要請期間が続き、コロナ禍において残り 17 回のカリキュラムを実施することが困難との判断から令和 2 年度の事業を中止した。

4 緑を通して地域コミュニティの活性化を促す事業

フラワーポットの貸出し

身近な花と緑の創出、地域の環境改善・美化、地域コミュニティの活性化等を図るため、札幌市内の団体にフラワーポットを 3 年間無料で貸し出した。初年度は花苗と培養土も提供。

貸出数:5 団体 100 基(花苗 500 株)。

5 緑のまちづくり活動への助成及び支援事業

(1) さっぽろガーデンシティ活動事業助成

都市緑化の推進、緑化活動によるコミュニティの活性化等を図るため、市民団体等が行う花や緑を切り口としたまちづくり事業に対して、必要経費の一部を助成する事業を募集した。

※助成財源:一般財団法人民間都市開発推進機構(MINTO 機構)からの拠出金

(2) さっぽろ花と緑のネットワーク事務局の運営 ※さっぽろ花と緑のネットワーク推進支援事業委託業務

花と緑のボランティア活動に携わる人、関心を持つ人の相互交流や活動支援のため、「さっぽろ花と緑のネットワーク事務局」を設置、運営し、花と緑のまちづくり活動に役立つ講習の開催や情報の発信、支援情報の提供、イベントの企画運営を行った。また、市民に向けて「さっぽろ花と緑のネットワーク」を周知する広報イベント等を実施し、登録促進を図った。

① 登録数・・・団体 34 団体、個人 300 人（令和 3 年 3 月 31 日現在）

② 情報発信・広報

ホームページの運営、会報誌の発行（年 4 回）、ハンドブックの発行・配布のほか、市内公園や地下鉄駅へのポスター掲示・リーフレット配布、SNS の活用等

③ まちづくり体験実習

花と緑のまちづくりへの参加を促し、スキルアップを図るため通年の公共花壇づくり体験実習を運営した。今年度においては、新型コロナウイルス感染防止の観点から、参加者を 2 グループに分け、時間差で活動するなど、3 密を避ける対策を講じながら実施した。

・市役所前コンテナガーデンづくり・・・7 回実施、延べ 86 人参加

・永山記念公園花壇づくり・・・8 回実施、延べ 90 人参加

④ 講習会等

タウンガーデナーのスキルアップと相互交流を図るため、講習会と茶話会等を実施した。

内容	参加人数	未登録 市民参加者
講習会 花壇メンテナンス講習会(全2回)	延べ36人	
講習会 種まき・育苗サポーター養成講座(2019年受講者対象)	24人	19人
タネ苗交換会(春・秋実施)	延べ40人	
茶話会 花まちサロン～フローティングフレームづくり～	3人	36人
講習会 花壇の土づくり講習会	19人	
講習会 コミュニケーションスキル講習会	会場5人・オンライン7人	
講習会 種まき・育苗サポーター養成講座(全3回)	延べ29人	
講習会 SNSを使って花と緑の活動を広めよう	13人	
合計	231人	

⑤ 研修見学会

百合が原公園の通常は入ることができないバックヤード等を見学ルートに組み込み、公園の植物管理等に携わる専門家の説明等を受け、園芸等の知識を深めてもらう見学会を実施した。

日程：令和 2 年 10 月 4 日 午前、午後に分けて 2 回実施 延べ 17 人参加

⑥ ポスター展

登録団体の活動紹介や、さっぽろ花と緑のネットワーク事業の PR のため、ポスター展を実施した。

日程：令和 2 年 7 月 17 日～7 月 20 日

会場：さっぽろ地下街オーロラタウン オーロラコーナー

⑦ 講演会「さっぽろ花と緑のまちづくりフォーラム 2020」

出演者をリモートで繋ぎ YouTube によるライブ配信での開催。※アーカイブ配信の再生回数 760 回超

日程：令和 2 年 11 月 29 日（日）

〔第 1 部〕チェルシーフラワーショー 2019 で金賞を受賞した柏倉一統氏、佐藤末季氏による講演。

〔第 2 部〕パネルディスカッション：札幌の花と緑のまちづくりについての意見交換。

パネリスト：狩野亜砂乃氏（花と緑のボランティア団体代表）、御手洗洋蔵氏（東京農大助教）、

中西亮氏（みどりの管理担当部長）、コーディネーター：愛甲哲也氏（北大農学研究院准教授）

⑧ 広報イベント「さっぽろ花と緑のネットワークフェア」

タウンガーデナー及び登録団体の活動をポスターと映像で紹介したほか、「さっぽろ花と緑のまちづくりフォーラム 2020」を上映した。また、花と緑に親しむワークショップとして、押し花の缶バッチづくり、花の種まきの体験コーナーを設けて事業 PR を行った。

日程：令和 3 年 3 月 19 日・20 日

会場：札幌駅前通地下広場 北 3 条交差点広場〔西〕

⑨ 技術指導講師派遣

活動の技術的支援のため、登録ボランティア団体・登録者が主催する講習会に講師を派遣した。

実施回数：6 回 延べ参加人数：59 人

公 2 指定管理等公園施設事業

1 公園緑地、自然環境及び都市緑化等に関する調査・研究

公園緑地における自然環境及び生物多様性の保全を図るため、生物・植物等の調査を実施するとともに、外来生物などの問題について地域全体の課題として捉えて啓発を図った。

(1) 大学、研究機関との連携による生物及び環境等の調査・研究

生物多様性の保全と自然の恵みを将来にわたり享受できる社会の実現、また持続可能な利用を推進するため、公園緑地等における現状の把握と課題の解決に向けた調査研究を行った。

このほか、大学の研究者や研究機関等と連携して自然環境等の問題について取り組み、改善に向けた対応策を検討・実施し、併せて市民への啓発を図った。

(2) 環境教育を通じた生物の調査及び報告展等の開催

次代を担う子どもたちによる生物調査プロジェクトとして、研究者等の指導により調査・研究を実施し、報告展及び展示解説を実施した。

(3) ボランティアとの協働による園内生物の調査及び報告

公園登録ボランティア等と協働で、公園緑地内の植物や生物の調査を実施し、結果を公表するなどして、市民への啓発を図った。

(4) 魚類等水生生物の調査・研究

札幌市内の河川等において、水生生物の生息状況やサケの産卵状況の把握、及び水辺環境の保全等を目的とした調査を実施し、結果を公表した。

2 公園緑地及び自然環境等に関する施設の管理運営

公園施設等において、安心・安全・快適な利用環境の確保、質の高いサービスの提供など、適正な管理運営により魅力を高めることで利用の促進に努めた。また、緑化相談や園芸講習会など、都市緑化を推進・サポートする専門性の高い事業を実施した。

(1) 安全及びホスピタリティの充実

見どころやイベント、園芸情報などについて、リーフレットやチラシ・ポスター、ホームページ、札幌市広報、マスメディアへの情報提供など、様々な手段で発信・提供した。特に、公園施設のイベント・展示会・講習会等の開催情報をまとめて紹介する「さっぽろ公園だより」を定期的に発行して広く配布・公開した。また、緑豊かで美しい公園景観の魅力を広く伝えるため、計12公園で「ガーデンアイランド北海道2020」に登録し、北海道における花と緑のネットワークづくりに貢献した。このほか、FacebookやTwitterなどの情報共有ツールを活用して、施設の状況を発信した。

新型コロナウイルス感染の対応については、各公園・施設で随時、札幌市と連携を取り、利用者の感染予防対策を行い利用者が公園の状況を適切に理解し利用するよう努めた。

また、誰もが安心して公園施設を楽しむことができるよう、バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化、ハザードマップの公開、AEDの配置のほか、スタッフの救命講習受講、緊急時対応訓練の実施、接遇検定の受検等により、ホスピタリティの一層の充実に努めた。

(2) 開かれた公園管理の推進

市民参加・協働による開かれた管理運営を推進するため、花壇の維持管理やイベントの企画・運営等について、ボランティアや地域住民、関係諸団体等と積極的に連携を図った。

また、公園施設利用の活性化、市民の活動の場や生きがいの創出、公園を中心とした地域コミュニティ活性化などを目的として、公園施設の利活用協議会等を設置するとともに、利用者アンケート等により市民の声を管理の改善に役立て、より魅力的な公園づくりを進めた。

(3) 都市環境の保全及び改善

HES(北海道環境マネジメントシステムスタンダード)の認証を受け、構築した EMS に基づき、公園施設等におけるエネルギー使用量の削減や資源の有効活用、生物多様性保全など、環境に配慮した取組に努めた。

また、市民参加・協働により公園内の生物多様性の保全と普及啓発を図るため、外来生物の駆除イベントを企画・実施した。

(4) 体験学習プログラム等の実施

自然、生物、歴史など、公園施設の魅力の発信と、身近な環境や緑化の大切さ、公園緑地に対する愛着の醸成を図るため、各種観察会や体験講座等を開催した。また、学校教育への協力の一環として、職場体験や博物館実習等を受け入れ、公園施設管理という仕事への理解を深めた。

(5) 公園施設の特性を生かした展示会及びイベント等の開催

園芸植物、自然、文化などの資源を生かした各種展示会やイベントを開催したほか、愛犬家のマナー向上を目的として、「愛犬といっしょの公園散歩講座」の開催や、札幌市による「リードをつないで楽しくお散歩キャンペーン」に計 15 公園が参加協力した。

(6) 植物及び自然等に関する知識・技術の普及

緑化園芸技術・知識の向上、自然等に関する普及啓発を図るため、各種園芸講習会や生物の飼育展示の企画・開催、専門スタッフによる緑の相談を実施した。

(7) 北国札幌の気候風土に適した植物管理

札幌の気候風土に適した植物を管理し、管理手法も含めた提案を行い、啓発を図った。また公園樹の健全な育成を図るため、樹木管理計画に基づいて適正な管理に努めたほか、稀少植物の保護やその啓発に取り組んだ。

特に、百合が原公園のユリ、川下公園のライラック、平岡公園のウメなど、テーマ植物を有する公園においては、海外を含めた外部との連携や、高度な知識・経験・技術に基づいた品種の導入・育成・管理等を進め、公園の価値と魅力をいっそう高めることに努めた。

3 公園緑地等におけるスポーツ・余暇活動及び健康の維持増進に関する事業

公園緑地を市民の健康増進の場として位置付け、運動教室や初心者講習会、競技大会などを企画・実施し、利用促進を図った。また、プレーパーク等の外遊び企画を実施した。

(1) 健康づくり及び体力の増進

公園緑地や園内施設が市民の健康維持と体力増進の場となるよう、環境整備を適切に行うとともに、ノルディックウォーキングや歩くスキー等の講習会や、子ども向けのかげっこ教室、各種の運動教室等を企画・開催し、市民の健康づくりを推進した。

(2) プレーパーク等、外遊びの推進

子どもたちの心身の健全な発達と自由な外遊びの場づくりのため、地域や関係団体のほか、札幌市子ども未来局と連携してプレーパーク事業の推進・普及に努めた。また、外あそびに関する当協会のプロジェクトによる取組として、公園あそびを推進するための各種体験講座等を開催した。

(3) スポーツを通じた交流及び競技力の向上

スポーツを通じて市民の交流推進と競技レベルの向上を図るため、パークゴルフ交流大会など、各種の大会、講習会等を企画・開催した。

また、厚別公園では(一社)A-Bank北海道との連携事業として、小中学生を対象とした陸上クラブ・サッカークラブを運営した。このほか、農試公園ではサッカースクール、かけっこスクールを開講した。

各公園施設における取組

大通公園・創成川公園

1 普及啓発・利用促進事業等

ボランティアや市民と協働で季節毎に北国の魅力・特性を活かした植物管理を行い、歴史的・文化的財産の共有、まちなかのみどりのオアシスとして質の向上に努めるなど、公園の魅力を十分に発揮し、来園者にやすらぎと活気を感じられる公園の管理運営に努めた。今年度は新型コロナウイルス感染対策のため、前半は公園への利用促進の呼びかけは控え、コロナウイルスが落ち着いた6月中旬頃からは公園に来園できない市民や観光客のために、開花している花や樹木などの写真をHPにて発信した。

(1) 市民や観光客への情報発信と「おもてなし」

自主事業として「大通公園インフォメーションセンター＆オフィシャルショップ」(以下、インフォメーションセンター)を運営した。また、「西3丁目カフェテラス」及び「とうきびワゴン」の運営を行い、利益の向上と利用者の利便性を図った。しかし、新型コロナウイルス感染対策のためインフォメーションセンター及びカフェテラス・とうきびワゴンについては4月、5月は臨時休業となり、また営業再開後も利用者は少なかった。

ホームページでは、タイムリーな開花情報のほか、ボランティアによる公園愛護活動の様子を随時発信し、市民協働による公園管理を広め、参加意欲の向上につなげることができた。

(2) 体験型利用の促進

大通公園・創成川公園では、新型コロナウイルス感染対策のため、ホワイトイルミネーション以外の大型イベントのほとんどが中止となった。

また、自主事業として計画していた以下の参加・体験型イベントも、コロナウイルスが比較的落ち着いた時期であり対策が取られ開催されたバラカフェ以外は、すべて中止となった。

■自主事業による開催予定のイベント一覧

大通公園	日数・参加者数	創成川公園	日数・参加者数
①どんぐりクラフト	中止	①公園まるわかりガイドツアー	中止
②竹馬無料貸出	中止	②ライラック写真募集	中止
③プレミアムウィークエンド	中止	③七夕会	中止
④バラフェスタ	中止	④子どもバラボランティア体験	中止
⑤バラカフェ	23日 230人	⑤夏休み公園謎解きラリー(共通)	中止
⑥子どもバラボランティア体験	中止	⑥ハロウィン	中止
⑦夏休み公園謎解きラリー(共通)	中止	⑦まちの灯り	中止
⑧くじらの森の遊びの会	中止		
⑨ウィンタースポーツフェスティバル	中止		
⑩冬を滑ろう!そり山	中止		

2 市民参加・協働等

市民ボランティアに対して、用具の提供・指導など活動支援を行い、市民協働の推進に努めた。

(1) ボランティア活動の支援

企業・団体の清掃ボランティア活動に対する用具等の貸出しなど、適切なサポートを行った。両公園の登録ボランティアについては、新型コロナウイルス対策のため、4月、5月の活動を中止した。ガイドボランティア以外は、6月以降、各自の体調管理やマスク着用などの感染対策を行い、活動を再開した。ガイドボランティアは、市民や観光客との対面でのガイドとなり感染対策が取りにくいことから今年度のガイド活動は中止とし、研修等のみの活動とした。ボランティア活動では自発的な活動を重視するとともに、専門家の技術指導によるスキルアップ、必要物品の支給等、またユニフォームの貸与等で活動の連帯感やモチベーションの向上を図った。冬期間は室内での活動のため、密になり感染防止対策が難しいことから、すべて中止とした。

(2) 地域団体との連携

大通公園では、地域住民主体の「大通地区にぎわいフェスタ」の実行委員としてイベントに参加予定であったが、新型コロナウイルス感染対策として中止となった。

創成川公園では、市民団体のウッドリペインターズとの協働で「ベンチ塗装プロジェクト」、フェアトレードフェスタ実行委員会との協働で「フェアトレードフェスタ」を開催予定であったが、どちらも新型コロナウイルス感染対策で中止となった。狸二条広場の活用について連携を図っている狸二条広場運営協議会の月1回の会議及び開催イベントの「サンキューフェスティバル」も中止となっている。

(3) 教育機関との協働

例年行っている、近隣小学校との連携で児童による花壇への花苗の植込みなどのボランティア体験についても、新型コロナウイルス感染対策として中止となった。

■NPO・ボランティア・団体との連携による開催予定イベント一覧

大通公園	日数・参加者数	創成川公園	日数・参加者数
①大通地区にぎわいフェスタ (実行委員会参加)	中止	①ベンチ塗装プロジェクト	中止
②大通公園ガイドツアー	中止	②フェアトレードフェスタ	中止
		③サンキューフェスティバル(共催)	中止

■ボランティア活動一覧(4月、5月、11月～3月休止)

	団体名	活動日数、延べ人数	活動内容
大通公園	①花壇維持管理ボランティア	25日 延べ111人	花壇の維持管理
	②花壇ボランティア(NPO シーズネット)	11日 延べ81人	花壇の維持管理
	③バラ管理ボランティア	40日 延べ635人	バラの維持管理
	④ガイドボランティア	16日 延べ150人	研修・樹名板取り付け作業
	⑤花壇ボランティア	2日 延べ56人	花苗の植え込み(春・夏)
創成川公園	①植物ボランティア	21日 延べ174人	ライラック等の植物維持管理
	②お助け隊	22日 延べ98人	清掃、除草などの公園維持管理
	③花くらぶ	16日 延べ64人	コンテナ花壇の維持管理

中島公園・豊平川緑地(上流地区)

1 普及啓発・利用促進事業等

札幌市中心部に位置しながらも水や緑が豊かで野鳥などの動物が見られ、歴史的建造物や文化施設もあり、さらには文化的イベントが今も開催されている総合公園であるが、今年度は年度当初より新型コロナウイルス感染拡大に伴い普及啓発・利用促進事業の多くを中止とした。夏以降は利用人数を制限し、対策を取った屋外イベント(Kids ガーデン、探訪ツアーなど)を開催したが、地域団体や企業、関連団体とともに開催するイベントは影響が大きいと判断し実施を見合わせた。

(1) 市民にわかりやすい情報提供

新型コロナウイルス感染拡大予防に関し、遊具施設の利用中止や施設休止の期間などの情報を、看板設置や当公園・緑地の公式ウェブサイトを活用して発信したほか、GW 期間中の利用増に対し園内放送設備を使用してソーシャルディスタンスに協力するようアナウンスを実施した。緊急事態宣言解除後もイベントの開催、中止などの情報を HP、園内掲示板を通じた情報提供に努めた。

(2) 「都心のオアシス」として公園の魅力向上

都心部における貴重な水景観である菖蒲池と鴨々川を有する園内において、良好な景観を楽しんでいただけでなく、サクラやアジサイといった季節を彩る花木類の管理に配慮するとともに、上半期は大規模な集客イベントが行われなかったことを好機ととらえ、例年痛みの激しい芝生や樹木の管理に力を入れ、緑地の質の向上に努めることができた。同時に施設清掃の頻度も増やし、汚損にも迅速に対応することで昨年度よりも平日の利用が増えているにも関わらず苦情が減少したことから公園の質が向上したものと判断する。夏以降は札幌市発注による施設の更新・修繕や危険木の伐採が実施され、利用者の利便性、安全性に供することができた。

(3) 歴史ある無形資産の維持・継承への協力体制の確保

「さっぽろ園芸市」、「札幌まつり」「ゆきあかり in 中島公園」など長期にわたり中島公園を会場として親しまれてきた催し物の維持・継承を図るため準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。これらの情報はメーリングリストを通して公園内及び周辺の歴史・文化・スポーツ施設や公園内外で活動する市民団体、企業、教育機関などや催事の主催、関係団体に情報共有し、相互協力・支援体制を整えるとともに、公園内の治安・安全性の向上に努め、札幌の文化・歴史を担う無形資産の継承と中島公園のイメージ向上に努めた。

■自主事業による開催イベント一覧

中島公園		豊平川緑地(上流地区)	
イベント名	参加人数	イベント名	参加人数
①なかじま桜まつり	中止	パークゴルフ大会	中止
②中島 Kids ガーデン	176 人	ラストコール杯	117 人
③鴨ノス茶会・野点	中止		
④5公園謎解きラリー	中止		
⑤ノルディックウォーク体験会	中止		
⑥みどころ探訪ツアー	28 人		
⑦青空画廊	中止		
⑧キャンドルナイト	中止		
⑨野鳥観察会	15 人		
⑩スノーシューレンタル	42 人		
⑪冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう!	中止		
⑫ゆきあかり in 中島公園	中止		

2 市民協働・地域との連携

地域との連携を図るためコミュニティ推進協議会を継続し、メーリングリストによる「さっぽろ園芸市」や「札幌まつり」「ゆきあかり」等のイベント開催の情報共有を図った。

9 月はコミュニティ推進協議会メンバーである中島児童会館が開催した地域の市民や子ども主体のイベント「かもくまミニ祭り」に人的協力を行い、地域住民や他の参加団体と共に中島公園の利用促進と地域振興に努めた。冬季最大のイベントである「ゆきあかり in 中島公園」は当初、規模縮小での開催を検討していたが 11 月からの感染再拡大に伴い準備運営に携わるスタッフや参加者の感染リスクと地域イメージの悪化を考慮し開催以来、初めての中止とした。

豊平川緑地パークゴルフ場（南 7 条コース・南大橋コース）では緊急事態宣言に伴い 6 月 1 日からの運営開始となったが、開始直後の混雑を回避するために休場日の特別開放を行うなどの対策をとった。運営は中央区パークゴルフ協会に委託することで、新規利用者へのルール説明やマナー啓発、利用者ニーズの把握、コース管理に係るアドバイスなど、サービス向上と利用促進に努めた。

今年度は GW に外出自粛が叫ばれているなか豊平川緑地でのバーベキュー利用者が急増したことを重く見た市の要請により、緊急で札幌市、民間警備会社、河川管理事務所と協力して利用者に自粛を呼びかけ 5 月中旬には鎮静化した。その後も河川管理事務所とは情報共有を行い再発に備えた。

(1) ボランティア活動の支援・協働

今年度は春の緊急事態宣言後から「3密」を回避しながらの活動となったが、園内花壇や花木の管理を市民ボランティアと協働で行い、園内花壇の土壌改良や雑草の繁茂が目立つ箇所を再生・植栽し、公園花壇の向上を図った。

(2) 近隣教育機関との連携

今年度は新型コロナウイルスの影響により教育機関の休校、活動自粛が相次ぎ、例年実施していた総合学習は全て中止となった。

(3) 市民活動・地域連携による相互の充実

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために 4 月に予定していた利活用協議会を中止とし、メールでの事務連絡（イベントの中止等）に切り替えた。2 月に開催予定であった「ゆきあかり」事業も開催についての会合を設けることができず、メールでの意見集約・報告とした。

このほかに中島公園内にある豊平館、北海道立文学館の運営協議会に委員として参加し、意見の交換を行っている。

■協議会・教育機関・ボランティア団体等との連携による開催イベント・事業一覧

団体名	活動日数、延べ人数	活動内容
フローレスの会	37 日 延べ 237 人	園内花壇・バラ管理等
中島 Kids ガーデン	17 日 延べ 176 人	地域の親子参加による野菜等育成体験学習
中島中学校にて講演会	中止	中島公園の歴史について講演
中島中学校職場体験	中止	花壇管理、清掃補助等
第 14 回かもくま祭ミニ	1 日 160 人	児童会館との協働子どもイベント
鴨々川清掃活動	中止	公園内を流れる河川の清掃
鴨々川いきもの観察会	中止	札幌市と協同で実施する生物調査
中島公園彫刻清掃体験	中止	園内彫刻の解説と清掃活動
日本庭園・野点	中止	地域団体との共催イベント
青空画廊	中止	中島中学校生徒の写生画展示
中島中学校総合学習	中止	ロウソク加工、冬イベント「ゆきあかり」補助
山鼻小学校総合学習	中止	冬イベント「ゆきあかり」補助
静修高校社会実習	中止	冬イベント「ゆきあかり」補助
第 15 回ゆきあかり in 中島公園	中止	中島公園地域連携による冬の風物詩イベント

3 利用料金収入

豊平川緑地パークゴルフ場及び南 22 条野球場は新型コロナウイルスの影響により 5 月末まで閉鎖としたため繁忙期の収入がなく、昨年よりも 1,637 千円の減収(前年比 82%)となった。ただし 6 月～9 月の期間で比較すると前年比 107%と比較的好調であった。

閉鎖時期もパークゴルフ場コースの維持管理を行っていたため、踏圧等の劣化が少なく、良好な芝を維持することができ、営業開始後は利用者からコースの質について好評を得ている。その後も定期的な草刈、施肥、灌水等の作業の他、例年問題であったフェアウェイのタンポポの手除草を行い質の向上に努めた。

南 22 条野球場においても、開放が 6 月からの利用開始となり休止期間分が減収となった。また 6、7 月はチームでの利用が前提となる運動施設の影響により回復は 7 月以降となった。利用中止期間中も定期的なグラウンド整備を確実に実施し良好なグラウンドコンディション維持に努めた。

利用料金収入合計 7,628,295 円 (パークゴルフ場南 7 条コース・南大橋コース及び南 22 条野球場)

円山公園

1 普及啓発・利用促進事業等

多種多様な樹木を有する公園の特徴を生かして、木の実や剪定枝等の植物廃材を活用した「あけびのかごづくり」「ナチュラルリースづくり」「もくもく工房」「苔玉づくり」を開催した。

札幌市経済観光局農政部農業支援センターとの共催で野菜の収穫期に「円山公園マルシェ」を開催し、冬期には「まるやまスノーラフティングチューブ」「スノーマウンテン造成」を開催しており、公園の利用促進及び活性化を図った。

スポーツイベントとして、「青空ヨガ教室」を複数回開催し、大変好評を得ており、今後も継続して開催していきたい。

円山公園の豊かな自然環境や歴史などをテーマとしたガイドツアーとして「円山公園探訪ツアー」を開催し、好評を得た。

園内ではリスや野鳥などの野生動物への過度な餌付けの影響が懸念されており、この問題への関心・意識の啓発につなげていくことを目的として、専門家や研究者らとともに、野生動物との付き合い方を考える「円山リスの会」を平成 27 年に発足し、市民参加による勉強会として「まるやま野生動物カフェ」を継続的に開催してきたが、新型コロナウイルス感染症の感染対策が十分に取れないことから、開催を見合わせた。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の一環として、当初計画していた自主事業のうち、「かけっこ教室」「円山公園こども夏まつり 2020」「夏休み公園謎解きラリー」「冬の円山公園にスノーキャンドルのあかりを灯そう！ 2021」「スノーマウンテンにおけるチューブそり無料貸出」「まるやま野生動物カフェ」を中止とした。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①青空ヨガ教室(8回)	94人	⑦円山公園探訪ツアー	16人
②おそとでほっと あおぞらあそびのひろば事業(16回)	530人	⑧ナチュラルリースづくり(5回)	34人
③円山公園マルシェ(5回)	1,863人	⑨スノーマウンテン造成	-
④ちょこっとプレーパーク in 円山公園(22回)	961人	⑩まるやまスノーラフティングチューブ(9回)	592人
⑤あけびのかごづくり	4人	⑪もくもく工房(2回)	37人
⑥ノルディックウォーキング講習会	3人	⑫苔玉づくり	19人

2 市民参加・協働等

在来植物の保護と外来植物の対策として、北海道自然保護協会と連携し、外来種除去活動を継続して実施しており、ゴボウ 176.0kg、イワミツバ 288.7kg、オオハンゴンソウ 16.0kg を除去した。

さっぽろ冒険遊びの会との共催で、「ちょこっとプレーパーク in 円山公園」及び「おそとでほっと あおぞらあそびのひろば事業」を開催し、子どもが自由にのびのびと外遊びできる場を提供した。

花壇管理ボランティアの方々とともに、神宮下園地の花壇の維持管理として、チューリップ球根の掘り取り・植え込み、コスモスの播種・抜き取り、除草作業等を月2回程度、定期的に行なった。

■ボランティア団体による活動一覧

団体名	活動日数/延べ人数	活動内容
一般社団法人北海道自然保護協会	9日/304人	外来植物(ゴボウ、イワミツバ、オオハンゴンソウ等)の除去活動
円山公園ゲートボールボランティア	19日/89人	ゲートボール場の整備
さっぽろ冒険遊びの会	38日/177人	プレーパーク事業の運営
花壇管理ボランティア(個人登録)	12日/37人	神宮下園地の花壇の維持管理

3 利用料金収入

有料施設は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、5月31日まで閉鎖となった。

坂下野球場は計画数よりも高頻度で芝刈、グラウンド整備を実施したほか、経年劣化していたホームベース及びピッチャープレートとの交換を実施し、良好なグラウンド状態の維持に努めた。

自由広場は新型コロナウイルス感染症の影響で8月まではほとんど利用がなかったが、9月以降、開催を延期していた幼稚園や保育園の運動会や運動会練習での利用が大半を占め、グラウンド状況に応じて、適時、グラウンド整備を実施し、良好なグラウンド状態の維持に努めることで、有料施設の利用促進を図った。

利用料金収入合計 532,820 円(坂下野球場、自由広場)

百合が原公園

1 普及啓発・利用促進事業等

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、4月14日から5月31日まで公園施設の営業を中止したなか、公園内において、ユリをはじめ、チューリップ、ムスカリ、ライラック、バラ、ダリアなどによる公園景観の提供に努めた。

6月からの施設再開後は感染防止対策を図り、緑のセンター温室での植物展示会の実施（一部中止）、園芸講習会の参加人数やリリートレインの乗車定員の削減を行いながら、来園者の回復に取り組んだ。客足は徐々に回復し、7月以降は、世界の庭園やリリートレインを中心に前年度実績を超える利用者数となった。なお、緑のセンター温室での植物展示会・講習会は3月までに21回の開催にとどまった。再開以降、事業の開催に当たり、広報専任担当者を配置し的確な情報発信を行い集客につなげた。

このほか、施設再開後、公園を題材としたクイズを出題するオリエンテーリングを7、10月に開催したが、ガイドボランティアが対応するお散歩ガイド、職員が見どころを案内するユリツアーは中止とした。

■自主事業による展示会・講習会・イベント観覧・参加者数（4月～3月）

(1)展示会・講習会	44,199 人
(2)オリエンテーリング	244 人
(3)プレーパーク	88 人

2 市民参加・協働等

(1)ボランティア活動の支援（4月～3月）

専属のボランティアコーディネーターを配置し、4つのボランティアグループ、計43名の活動を支援して、公園の魅力アップにつなげた。

・温室管理ボランティア「ミモザ」 12 人	・バラ管理ボランティア「ローズヒップ」 7 人
・宿根草管理ボランティア「クローバー」 8 人	・公園ガイドボランティア「ガイド」 16 人
合計 62 日 延べ 360 人	

(2)体験学習、実習等の受け入れ

例年、札幌市内の小中学校や近郊の高校などから、環境学習や職業体験、インターンシップの受け入れを行っていたが、今年度は多くの学校より中止の連絡を受け、以下1校の受け入れをした。

・札幌工科専門学校 インターンシップ 2 人 8月24日～9月4日

(3) 生物多様性の普及・啓発

生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの参加施設として、市民への情報の発信や、連携事業であるオンライン生き物クイズラリー2020に参加した。

3 緑の相談（4月～11月）

市民園芸の普及、支援のため、緑のセンターで冬期を除く週2回（木曜、日曜）、緑の相談業務を行う計画であったが、新型コロナウイルス感染防止のため、相談は9月から開始し相談件数は434件だった。

4 利用料金収入（4月～3月）

4月1日～13日までの緑のセンターの営業と、6月1日以降の園内施設の営業及び園芸講習会、植物展示会の再開後、現在に至るまで開花情報やイベントの広報発信を行った結果、客足は徐々に回復し、6月の再開以降は、前年度実績を上回る結果となった。

利用料金収入合計 11,262,850 円（緑のセンター温室、世界の庭園、リリートレイン）

※参考 施設再開後の前年比（6月～2月） 9,127,010 円（前年比 127%） ※前年3月は営業中止

モエレ沼公園

1 普及啓発・利用促進事業等

感染症対策を取りながら、イサム・ノグチ作品としてのクオリティを確保し、非常時こそ市民にとって魅力ある公園であり続けられるよう、公園の価値向上ならびに安全で快適な公園利用に向けて事業を展開した（入園者数 680,325 人）。

(1) 市民や観光客にとって魅力ある公園づくりと情報発信

1) 快適で安全な公園利用、イサム・ノグチ作品としてのポテンシャルを生かした持込イベントへの対応

持ち込みの大会等は予定されていたものの、ほとんどが中止となった。8月頃からは駅伝、テニス大会、マラソン大会等数件実施された。今回で 8回目となる「モエレ沼芸術花火 2020」（主催：モエレ沼芸術花火実行委員会）は、感染症対策のため来場者数を限定して開催し、4,478 人の入場者数であった。

施設等の管理では、安全管理、事故防止に加え、感染症リスク軽減の対策を盛り込みつつ、各種イベントへの柔軟な対応・協力をを行い、魅力ある公園づくりに努めた。

2) 公園の開放状況の積極的な周知と観光客への魅力発信と誘客

利用者の情報入手媒体として重要である公式ウェブサイトのほか、Facebook や Twitter などによる効果的な情報発信に取り組んだ。本年は特に、感染症対策のため公園の開放状況が短いスパンで変更となったため、Google Map のお知らせ機能なども活用し、周知に努めた。春は広報が難しい状況であったが、7月ごろからは感染状況も落ち着き、各種イベントへの取材のほか、旅行雑誌や各種メディアによる動画撮影、北海道のアートスポット紹介などさまざまな取材に対応して誘客に努めた。

3) 多くの市民が質の高いアートに触れ合える機会の提供

市民が気軽にアートに触れ合える観覧無料の展覧会のほか、新型コロナウイルス対策実施のもと恒例となっているクリスマスコンサートイベントなど、多くの来場者を集め利用促進及び公園の価値向上につながった。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	観覧・参加者数	イベント名	観覧・参加者数
①モエレの1年展	2,478 人	③モエレのホワイトクリスマス 2020	70 人
②モエレ沼公園グランドオープン 15 周年記念展「山内悠 惑星」	7,257 人	④所蔵品展 イサム・ノグチあかり展	1,975 人

(2) 他団体と連携した誘客活動

北海道内各地の美術館等施設が参加する「アートギャラリー北海道」に加入し、相互の連携により、多様な鑑賞機会の提供や魅力あるイベント、効果的なPR活動などの取り組みに努めた。

2 市民参加・協働等

市民が公園を活動の場として気軽に利用できるよう、ボランティア団体と協働でイベントを開催したほか、サクラの育成や栽培などフィールドを活用した活動を支援した。

また、周辺町内会や NPO、ボランティア団体をメンバーとした「モエレ沼公園利活用協議会」を開催し、公園の利用状況のほか、各種事業への取組とその成果等を報告して公園運営に対する理解を深めていただくとともに、出席者から多様な意見を拝聴して意見交換を行った。

■NPO・ボランティア団体による開催イベント一覧

団体名	一般参加者数	活動内容
モイレ HIDAMARI	52 人	木の葉でたたき染め、夏のクラフト「いろいろスプーン」、押し葉アート「飾る」、紅葉を楽しむミニ盆栽等
NPO モエレ沼公園の活用を考える会	70 人	みんなで一緒にモエレ秋のコンサート

3 冬期間における公園活用の促進

冬の公園利用促進のため、日常生活や週末レジャーを楽しむ場として、クロスカンリースキーや冬の散歩コース、ソリ滑り場を設置したほか、スノーシューやソリなど、ウインタースポーツ用品の貸出しを行った。

なお、例年開催している「モエレ山爆走そり大会」および3年に1度実施している札幌国際芸術祭 2020 は中止となった。

4 利用料金収入

スポーツ施設および、ガラスのピラミッド貸室、レンタサイクルは4月、5月は利用休止。6月1日から利用を再開した。しかしながら6月、7月は自粛傾向が続き、いずれの施設も利用者数はかなり少ない状況であった。夏に向けて徐々に利用状況は改善し、特にスポーツ施設では、9月は前年度を上回る利用があった。

ガラスのピラミッドの貸室では、集客イベントの実施ができない余波で、撮影利用の需要が伸びた。9月からは人数制限をかけながらも、集客イベントが開催された。利用者の多岐にわたる要望に細やかな対応を心掛け、事前の調整を綿密に行ったほか、他の利用者への案内や調整により円滑な施設利用に努めた。

利用料金収入合計 12,475,288 円

(テニスコート、陸上競技場、野球場、コインシャワー、レンタサイクル、野外ステージ、ガラスのピラミッド)

川下公園・北郷公園・豊平川緑地(下流地区)

1 普及啓発・利用促進事業等

川下公園の設立目的である、「ライラックの普及啓発」と「健康増進」を 2 本の柱に利用促進事業を計画し、魅力溢れる公園の管理運営に取り組むこととした。

(1) 公園の特色を生かした公園づくりと普及啓発活動

1) ライラックを生かした公園づくりや情報発信

「第 62 回さっぽろライラックまつり」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、併せて川下会場も中止となった。

2) 健康増進施設としての活動

温水プールや浴室を備えた全天候型屋内施設リラックスプラザを有する川下公園では、施設の有効活用や市民の健康増進を目的として、水中健康教室、骨盤矯正ダイエットヨガ教室、フリースタイルダンス教室を開催しているが、コロナ禍により、受講者の年齢層が高い水中健康教室と骨盤矯正ダイエットヨガ教室は中止した。なお、小学生を対象としたフリースタイルダンス教室は、感染拡大防止対策の徹底を図った上で、9 月から再開した。

(2) コロナ禍による影響と対策

1) コロナ禍によるリラックスプラザ

全国的な感染者数の増加により、4 月 14 日から 5 月 31 日まで全館閉館とした。

6 月 1 日からは開館時間を短縮（通常 21 時閉館を 17 時）し、インナーパーク等一部エリアを再開し、6 月 16 日からはさらに 2 時間延長（通常 21 時閉館を 19 時）し、プール・浴室も再開した。

館内軽食コーナーの営業は、11 月以降、道内での感染拡大第三波の影響により、来館者数の減少が著しくなったため、12 月から 3 月中旬まで土日祝日のみの営業とした。

2) 感染拡大防止と公園の魅力創出

夏季、来園者で賑わうバーベキュー広場及び遊水施設のカナール、壁泉はコロナ禍により利用中止とした。

コロナ禍により屋外で過ごす公園利用者への魅力訴求・満足度向上を図るため、昨年増設したバラ花壇と新規一年草花壇の植栽充実を図り、色彩豊かな緑地景観の演出に努めた。また、新たにオリジナルプランターを製作・設置し、写真撮影スポットとして来園者に楽しんでいただけるように努めた。

■ 自主事業等による開催イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①水中健康教室	中止	⑦白石区ふるさとまつり(共催)	中止
②ヨガ教室	中止	⑧川下公園秋まつり	中止
③フリースタイルダンス教室(8 月末まで中止)	178 人	⑨ネイチャークラフト講座	中止
④さっぽろライラックまつり in 川下公園	中止	⑩川下公園ウインターフェスティバル	中止
⑤ライラックガイドツアー	中止	⑪スノーラフティングボート	394 人
⑥パークゴルフ大会(川下公園PG場)	中止		

2 市民参加・協働等

(1) 市民参加のボランティア活動

ライラックの花がら摘みや挿し木、除草を「川下公園ライラックボランティア りらら」の活動として実施し、知識・技術の習得と向上に取り組んだ。

(2) 市民協働の活動

例年近隣中学校の校外学習の場として実施している「白石区でっち奉公」はコロナ禍により中止となったが、一部の中学校からはパソコンによるリモートでの実施や電話で質疑応答などの依頼があり対応した。

また、例年実施されている白石区ふるさとまつりは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

3 ライラックの継続的な品種管理

次年度以降のライラックまつり開催時において、無料配布するライラックの苗木を育成するため、「川下公園ライラックボランティアらら」と共に、700 ポット分の挿し木を行った。

ボランティア活動については、参加者がやりがいを感じられるように、また、活動を通じてライラックの育成管理技術を体得するなど活動内容に工夫を凝らすように努めた。

また、北軽井沢のライラック園から入手した新品種のライラックの育成も順調に進み、一部は次年度から開花が見込まれ、新たな魅力としての紹介を予定している。

4 利用料金収入

屋外有料運動施設はコロナ禍により開放時期が遅れ、6月1日から11月23日までとなった。

※改修工事のため、北郷公園野球場は9月13日、川下公園テニスコートは9月22日で終了した。

利用料金については、コロナ禍の影響により、例年に比べ利用件数は減少し、売上額も減少した。

利用料金収入合計 10,708,750 円(対前年度比 64.8%)

(川下公園浴室・プール、川下公園野球場・テニスコート・パークゴルフ場、北郷公園野球場、豊平川緑地下流地区サッカー場)

豊平公園

1 普及啓発・利用促進事業等

豊平公園緑のセンターは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月13日から5月31日まで臨時閉館し、6月1日より再開したため、センター年間来館者は88,220人となり、昨年度の来館者より約31%減となった。センター開館に際しては密にならないよう、感染防止対策をとって開放している。

(1) 市民緑化の推進を目的としたバラエティに富んだ展示会・講習会の開催

札幌市で最も古い緑のセンター(昭和54年3月開所)として、開所当時から様々な展示会を企画・運営し、今年度も流行の植物から古典園芸、植物を題材とした絵画、クラフト作品まで幅広い内容の展示会開催を予定し、また、園芸技術、知識、文化の普及を目的とした園芸教室・講座、自然教室、クラフト講習会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため緑のセンターを臨時休館したことや、開館後も連携協力を行っている植物愛好家団体からの開催中止を受けたことで、事業の多くが遂行できなかった。なお、実施した展示会や講習会等の開催に際しては密にならないよう、感染防止対策をとって対応している。

- ・展示会(秋のミニ盆栽と山野草展他) 延べ87日間 8回 入館者20,603人
- ・園芸教室(洋ランの栽培、ロープワーク、鉢花・草花・球根類) 10回 82人
- ・園芸講座(バラづくり、宿根草、堆肥作り) 5回 66人
- ・クラフト講習会(あけびクラフト) 4回 51人
- ・コチョウラン植え替えサービス 2回 18人 観察会 1回 12人

(2) 市民、他施設との共同イベント開催

新型コロナウイルス感染拡大防止のため緑のセンターを臨時休館したこともあり、今年度は近隣施設や団体等との共催イベントは開催していない。6月の開館以降は公園が市民コミュニティの場として活用されるよう広報活動に努めた。また、生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの参加施設として連携事業の「生き物クイズラリー(オンライン)」に参加した。

(3) 緑化情報「緑のセンターだより」の発行

季節の植物や栽培方法などの情報を掲載した「緑のセンターだより」を毎月編集・発行し、約13,000部を札幌市各区役所や近隣まちづくりセンター、公共施設、各公園に無料配布し、公式ウェブサイトでも公開した。

紙面をカラー化したことで、旬の開花情報や写真、イベント案内などが見やすいと好評を得ている。

2 市民参加・協働等

市民による緑化活動の活性化やイベントの充実化を目的として、登録ボランティア団体と公園の花壇や緑地の管理、イベント準備・運営等を協働で行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月中旬から6月中旬までの活動を中止した。なお、活動再開後は、感染防止対策をとって活動している。

- ・豊平公園花とハーブの会 16日間 延べ132人

屋外花壇・植栽管理、センター内植物管理、花壇・野草園・芝生内除草、リース作製や飾りつけ

3 緑の相談

市民園芸の普及と支援のため、休館日を除く毎日、緑の相談業務を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月1日から8月31日までは電話相談のみとし、9月1日より対面での相談を再開したが、再度感染拡大の状況となったため、12月1日より電話相談のみとした。なお、相談業務に際しては感染防止対策をとって対応している。

- ・相談件数 電話、対面相談を合わせて14,694件

4 利用料金収入

利用料金収入合計 1,506,840円(テニスコート、講義室)

平岡公園・清田南公園

1 普及啓発・利用促進事業等(平岡公園)

梅林の健全な育成と景観の維持・向上のため、積雪寒冷地でのウメ栽培のスキルアップを図り、良好なウメの栽培管理に留意し、清田区ふるさと遺産としての平岡公園梅林の魅力アップに努めた。また、園内の豊かな自然を活用した各種観察会等を開催し、環境教育の場としての利用促進に努めた。

(1) 魅力ある公園づくりと情報発信

1) 札幌の花見の名所としての梅林の魅力発信

新型コロナウイルス拡大防止のため札幌市の指示により「梅まつり」を中止とし、梅林全域の閉鎖及びイベント中止について細やかな対応と広報をおこなった。今年度は、例年と同様の梅林の魅力発信をすることはできなかったが、梅林開放後にホームページにて、今年度のウメ開花状況写真を掲載し梅林の魅力発信に努め、閉鎖期間中の苦情や混乱を最小限に抑えた。

2) 市民協働による環境教育の拠点として、自然と触れ合う機会の提供

新型コロナウイルス拡大防止の観点から、例年行っている市民・近隣住民・市民団体・大学等との連携による環境教育の拠点としての役割を果たすことが難しくなり、協力している近隣小学校や大学の環境教育授業などはすべて中止となった。地域ボランティア及び連携大学と協働で行っているイベントも9月から一部を実施するに留まり、新型コロナウイルス対策が困難なイベントは中止とした。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	回数	参加者数	備考
① 公園ツアー	0回	0人	イベント自粛
② ヘイケボタル観察会	0回	0人	イベント自粛
③ 雪のおうちイグルーを作ろう	1回	16人	

■ボランティア団体との協働イベント一覧

イベント名	回数	参加者数	備考
① ながぐつの土ようび	3回	28人	9月・10月・2月(2月は天候不良で中止)
② ツリーウォッチング	3回	11人	9月・10月・2月(2月は天候不良で中止)
③ にぎわいフェスタ	0回	0人	イベント自粛

2 市民協働、地域連携による公園づくり

(1) 市民の参加・協働による地域の活性化を目指して

地域住民とのコミュニケーションの活性化と公園における市民活動の推進のため、ボランティア活動に意欲のある市民を積極的に受け入れる準備を行っていたが、新型コロナウイルス拡大防止のため活動開始の遅れや活動内容の変更などにより当初計画通りの活動は困難であった。しかしできる限りの支援を行い、市民協働による管理運営を進めた。

■平岡公園の活動ボランティア

活動団体名	人数	活動日数、延べ人数	備考
平岡どんぐりの森	14人	5日 延べ 26人	人工湿地管理・環境イベント等 新型コロナウイルス感染拡大防止でイベント自粛。9月より再開
梅ボランティア	6人	1日 延べ 1人	ウメ管理 新型コロナウイルス 感染拡大防止で活動自粛。9 月より活動再開
パークゴルフボランティア	24人	113日 延べ 365人	パークゴルフ場管理 新型コロナウイルス感染拡大防 止のため施設閉鎖。6月より施 設再開

■清田南公園の活動ボランティア

活動団体名	人数	活動日数、延べ人数	備考
清田南公園野球場ボランティア	1人	—	少年野球場の利用調整 6月より施設使用開始

(2)平岡公園の利活用や環境保全に関する連携

公園の財産である自然環境を保全し、環境教育等への活用を進めていくため、ボランティア団体や大学、研究者等と連携を行った。また、公園の樹林内園路更新のための話し合いの場として「利活用協議会」を開催し、中長期の方向性を見すえた保全・管理に取り組んだ。

3 利用料金収入

利用料金収入合計 4,307,440 円(平岡公園テニスコート・野球場、清田南公園テニスコート)

平岡樹芸センター

1 普及啓発・利用促進事業等

2.9 ヘクタールの園内に北国向けの豊富な樹木や日本庭園、西洋庭園を備え、札幌市都市緑化植物園として緑化の啓蒙並びに家庭園芸の普及を目指すとともに、北国の造園技術、知識の継承を目的とした市民向けの実践型講習会を開催したが、5、6月の園芸教室は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を中止した。

なお、今年度の開園期間は、4月29日から11月8日であった。

また、地域の貴重な観光資源であるサクラ、モミジの並木などの美観向上を目的とした整枝・剪定作業に力を注ぎ、公式ホームページへの開花情報の掲載やメディアの活用により、効果的な利用促進に努めた。

■自主事業による開催イベント一覧

事業名	回数	参加者数	備考
①園芸教室	10回	延べ145人	マツ、オンコ、モミジ、果樹等の剪定等
②クラフト教室	1回	9人	あけびと藤つるを使ったつりかご製作

2 市民参加・協働等

当園で活動しているボランティア団体である環境サポーターズ「三次郎の会」を適切にサポートすることにより、効率的な植物・樹木の維持管理に努めた。

樹木会による活動は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度は中止した。

■ボランティア団体の活動状況

団体名	活動日数	人数	団体名	活動日数	人数
環境サポーターズ 三次郎の会	18日	延べ131人	樹木会	0日	延べ0人

また、例年環境サポーターズ「三次郎の会」と協働で開催している「こども夏祭り」、「庭園コンサート」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度の開催は中止した。

その他、生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの参加施設として、市民への情報の発信や、連携事業である生き物クイズラリーに参加した。

3 緑の相談

市民園芸の普及と支援のため、週2回(水曜、土曜)、緑の相談業務を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、6月2日のみどり一む再開館後も8月までは電話相談のみとし、9月より対面での相談を再開した。

相談件数は、電話、対面相談を合わせて586件であった。

4 利用料金収入

利用料金収入合計 37,010円(講義室)

農試公園・発寒西陵公園

1 普及啓発・利用促進事業等

農試公園は小学校や住宅地に近く、また隣接地で新たな宅地造成がなされ、若い家族世帯の利用も増加しており、四季を通じて健康づくりとスポーツを楽しめる公園として、多様な利用者に魅力ある公園となるよう、施設の有効活用に努めた。さらには、複数の手段により公園利用に関する情報発信を行い、利用促進に努めた。

(1) 公園施設の活用推進、イベント・体験講習会等の開催

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、屋内広場アリーナは 6 月から供用を再開し、施設内の消毒や換気等、感染防止対策を十分に行った上で、通常のスポーツ利用のほか、幼稚園や保育園の運動会など、多様な持込イベントの実施について柔軟に対応・協力した。

アリーナを含む運動施設全体の利用状況については、6 月が昨年を下回ったものの 7 月からは天候も追い風となり昨年来上回った。

また、サッカースクールやかけっこスクールを 7 月から開催し、子どもたちの技術習得や競技能力向上、交流促進に努めた。

交通コーナーでの交通安全教室、トンカチ広場での木工ワークショップなどの事業実施は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を中止したが、交通コーナー、トンカチ広場の通常の施設利用については札幌市の広報誌や西区の地域 FM ラジオ等を活用し、積極的な利用促進に努めた。

また、イベントはコロナ感染拡大防止の観点から 1 回の参加人数を少なくして開催回数を増やし感染防止対策を行いながら開催した。

■自主事業による開催イベント等一覧

イベント名	開催月	参加者数	イベント名	開催月	参加者数
①はじめての自転車教室(10日)	7 月 9 月 10月	101 人	⑥クリスマスリースづくり	12月	25人
②琴似発寒川さかなウォッチング	7 月	25 人	⑦しめ縄リースづくり	12月	14人
③吊りシノブづくり(3日)	8 月	7 人	⑧門松づくり	12月	21人
④素焼き鉢で風鈴づくり	8 月	13 人	⑨歩くスキー講習会	1月	22人
⑤愛犬といっしょの公園散歩講座	10 月	20 人	⑩わいわいタイヤチューブ	1月 2月 3月	2,486人

■自主事業によるスポーツスクール

スクール名	回数	のべ参加者数	スクール名	回数	のべ参加者数
のうしサッカースクール 通年毎週水曜日開催	27 回	527 人	のうしかけっこスクール 通年毎週月曜日開催	24 回	337 人

(2) 札幌市民、近隣住民への情報発信

公式ウェブサイトを活用し、基本的な利用情報のほか、公園の利用促進につながるタイムリーな情報発信に努めた。

また、農試公園の利用促進を図るため、毎月の施設利用情報等を記載した広報紙「農試公園だより(A3 両面二つ折り)」を約 3,500 部作成し、市内各施設及び近隣町内会等に配布した。

このほか、広報さっぽろや地域 FM ラジオ局、フリーペーパー等に積極的に情報提供し利用促進に努めた。

2 市民協働による公園管理・利活用の推進

屋内の観葉植物や園内花壇の植栽・維持管理、花苗育成などの活動を行う緑化ボランティア「カポック」は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から4月、5月は活動を休止し、6月より活動を開始した。公園から花苗・育苗土・ハンギング用プランターなどの必要な資材等を提供し、活動を支援した。

例年、地域連携として「八軒まちづくり協議会」、「八軒地区青少年育成協議会」に参加し、「交通安全教室」等の連携事業を実施していたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。

教育機関との連携事業としては、八軒西小学校3年生の総合学習として農試公園のフラワープランターへの花植えや花壇へのチューリップの植え込み体験、6年生による職業体験などを予定していたが、こちらも新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。

3 利用料金収入

新型コロナウイルス感染防止の観点から有料施設は6月からの稼働となった。7月以降は好天に恵まれ野球場を除くすべての施設で稼働率が昨年度実績を上回ったが、コロナ感染拡大のあおりを受け屋内広場の専用利用のキャンセルも多かった。また、農試公園は今年度から5年をかけて改修工事が計画されており、屋外野球場2面の内、1面は今年度改修工事のため供用されなかった。そのため、野球場の利用料金収入は昨年度より減収となった。

利用料金収入合計 13,387,400 円(昨年度実績 14,582,520 円)

(農試公園野球場A・硬式テニスコート・軟式テニスコート・屋内広場アリーナ、発寒西陵公園硬式テニスコート)

※野球場Bは改修工事のため令和2年度開放無し

手稲稲積公園・北発寒公園・前田公園

1 普及啓発・利用促進事業等

雄大な手稲山のすそ野に位置する手稲稲積公園は、「主として運動の用に供することを目的とした」市内で4箇所運動公園の一つで、ていねプールをはじめ、市内最大規模の多面数テニスコートや野球場、パークゴルフ場などの運動施設を備えている。小規模ながら野球場やテニスコート等の有料運動施設を備えた手稲区の地区公園である北発寒公園・前田公園と合わせ、手稲区はもとより市内のスポーツの拠点として、市民の幅広い利用を促進するよう管理運営事業を行っている。

(1) 健康づくりやレクリエーションを通じた交流の場とスポーツの拠点としての価値の向上

公園の緑に囲まれた環境にある有料運動施設を良好な状態に維持管理し、四季を通じた市民の健康づくりや交流の場としての魅力を高めるため、スポーツへの新たな参加機会の提供としてテニス講習会やノルディックウォーキング講習会を企画し、また地域とみどりの交流の場の創出として子どもや主婦層を対象としたクラブ体験や「冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう」等のイベントを企画した。

実施協力団体の意向により中止となったイベントもあったが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながら、開催可能なイベントを実施した。

■自主事業による開催イベント・講習会の一覧

月日	名称	参加者数
10/17	①ノルディックウォーキング講習会	中止
10/18	②テニス講習会	15人
10/24・25	③④木の実のリース講習会(午前午後/計4回)	30人
1/16	⑤冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう	20人

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ノルディックウォーキング講習会は実施協力団体の意向により中止、他の講習会はいずれも定員を半減しソーシャルディスタンスを確保した上で、検温やアルコール消毒、マスクの着用等の対策を講じて実施した。

2 地域との連携・市民協働事業等

3 公園とも周辺に複数の町内会がある住宅街の中心に位置する公園であることから、特に地域との交流と相互理解、町内会や近隣施設等との連携協力を重視した公園管理運営を行っている。

(1) 市民に親しまれ活用される公園づくり

地域の中で公園の果たす役割を考え、公園の価値を高めていくことを目指し、町内会、まちづくりセンター、幼稚園、学校等の参加により「手稲稲積公園利活用協議会」を継続して開催してきたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。

反面コロナ禍にあっても、町内会イベント等の中止に代わる行事として、レクリエーションを兼ねた公園のゴミ拾い等での町内会活動の場の提供要請や、町内会での街路樹植栽花壇の緑化・美化活動におけるノウハウ提供の要請に協力し、地域における公園の価値を再確認して頂く契機となった。

また、手稲稲積公園のパークゴルフ場ではボランティア活動の取組みとして、同好会団体と協働でコース管理等の活動を実施し、利用者の声を直接聞くことで管理運営のレベルアップを図った。

(2) 地域への貢献と近隣との連携・協働を目指した公園づくり

例年、近隣の小中学校等の教育機関による「体験」や「学び」の場としての公園利用への協力や、地域イベントへの参画・協力など、町内会や関係団体との連携・協働に努め、地域に根ざした公園利用の促進を図ってきたが、今年度は学校行事・町内会行事のいずれもが新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からほとんど中止を余儀なくされた。しかし、レクリエーションを兼ねた公園のゴミ拾い等での町内会活動の場の提供要請や、町内会での街路樹植栽花壇の緑化・美化活動におけるノウハウの提供要請に対応し、地域貢献と近隣との連携協働を図った。

また、近隣連合町内会と児童会館、まちづくりセンター等の公共施設、小中学校等の教育機関、警察や消防、病院等とで組織する「稲積安心・安全まちづくり協議会」に当公園管理事務所も加盟しており、同団体に

よる地域の防犯・防災、安心安全な地域づくりへの協力貢献に努めた。

このほか、近隣町内会からの要望により、通勤通学などで園路を通して JR やバスなどの公共交通機関利用者が冬期間でも安全に通行できるよう、降雪状況に応じて園路除雪作業を実施した。

■地域との連携等の実績一覧

月日	名称	主旨・内容	参加者数 (主催のみ)
5/13～	いなづみ花クラブ(全4回) ※3回はコロナ禍中止	児童会館の小学生を対象として、花壇の植込みや水やり、手入れ等を通じて植物が成長する喜びや学びを体験する活動	10人
6/25	稲積小学校3年生花苗植込実習 ※コロナ禍中止	稲積小学校3年生が休養広場花壇にサルビアやマリーゴールドなどの1年草の花苗を植える体験実習	中止
6/27	稲積連合町内会下手稲通・富丘通街路樹植栽花壇造成(花苗植込作業の指導・協力)	稲積連合町内会が今年度から新規造成する下手稲通・富丘通の街路樹植栽花壇34コマへの花壇造成作業への指導・協力	実施
8/1	前田ふれあいまつりへの協力	前田連合町内会が主催する夏まつりの運営に協力し、体験や売店等の催事出店	中止
10/11	前田連合町内会による手稲稲積公園内親子清掃イベント	前田連合町内会による親子での公園ゴミ拾いボランティア活動イベントへの協力	実施
10/18	前田連合町内会による前田公園内親子清掃イベント	前田連合町内会による親子での公園ゴミ拾いボランティア活動イベントへの協力	実施
10/24	稲積連合町内会下手稲通・富丘通街路樹植栽花壇造成(堆肥すき込みと球根植込作業の指導・協力)	稲積連合町内会が今年度から新規造成する下手稲通・富丘通の街路樹植栽花壇34コマへの花壇造成作業への指導・協力	実施
10/28	木工クラフト体験事業(いなづみ児童会館と共催)※コロナ禍中止	園内で採取した植物材料を使用した木工クラフトや松ぼっくり釣りの体験	中止
11/14	稲積安心・安全まちづくり協議会落葉収集ボランティア作業	稲積連合町内会と協働で公園前道路の落葉収集ボランティア作業への協力	実施
11/19	公園利活用協議会 ※コロナ禍中止	公園周辺地域との意見交換や情報共有を通じて連携・協働を図る場として開催	中止
6/24～	稲積安心・安全まちづくり協議会(計6回)4回はコロナ禍中止	協議会に加盟。総会、役員会、講演会、講習会は中止、落葉清掃のみ実施	—
3/10	いなづみ児童会館連絡協議会	いなづみ児童会館の連絡協議会に参加し、年度の事業報告と次年度事業の検討	中止

3 利用料金収入

テニスコートでは、4月・5月は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から公園施設が全閉鎖となり、6月・7月は予定されていた大規模大会のほとんどが中止となったが、改修工事中であった手稲稲積公園の12面テニスコート前駐車場が全面供用開始となったことや、円山公園競技場の軟式テニスコートが8月から改修工事のため閉鎖となったことも重なり、8月以降硬式・軟式を問わず競技団体の大会利用が集中した。大会運営への協力として、休憩所等の開・閉場時間や大会使用コートの利用時間など適正に対応した。

また、ていねプールが今シーズンは営業を中止したことから、プール駐車場を代替駐車場として利用対応を行ったほか、大会開催レベルの砂入り人工芝コートの適正なメンテナンスに努めた。

その他の施設管理においては、施設の老朽化や使用劣化が目立っていた北発寒公園硬式・軟式テニスコートが9月1日から、前田公園野球場及び駐車場が9月14日からそれぞれ工事閉鎖となったが、工事対応や利用者案内周知、管理整備を行い、運動公園の指定管理者として良好なコンディション維持に努めた。

利用料金収入合計 8,270,330円(手稲稲積公園硬式テニスコート・野球場、北発寒公園硬式・軟式テニスコート・野球場、前田公園野球場)

1 普及啓発・利用促進事業等

前田森林公園では、ポプラ並木やカナルをはじめとした景観の維持や、自然環境保全と利用者の安全に留意した維持管理を行った。

令和 2 年度上半期は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、一時的な駐車場や園内施設の閉鎖等があり、また来園者に安心してご利用頂けるよう消毒体制を整える等の対策を、園内掲示物、ホームページや携帯端末等の情報発信ツールを活用し、こまめな発信を心がけた。

(1) 安心して利用できる公園づくりと情報発信

1) 樹木の維持管理と施設内の新型コロナウイルス対策による安心・安全な環境づくり

前田森林公園敷地の半分が樹林帯であり、樹木管理においては計画的に枯損木や枯損枝、危険木等の伐木等を行い来園者の安全安心な環境づくりを行った。特に全長 600m のポプラ並木は集中的な剪定を実施し、大型の落ち枝等を未然に防ぐ管理をした。さらに札幌市と協議し今後のポプラ並木の管理等についての計画を設定するため、樹木診断を実施する予定となっている。

前田森林公園内施設、山口緑地の管理棟、各パークゴルフ場クラブハウスにおいては、アルコールによる定期的な消毒、換気、ソーシャルディスタンスのための床面掲示等、コロナ対策を徹底し対応した。加えて、園内のコロナ関連掲示物は、情報が更新される都度掲示内容を変更し対応した。

2) 情報発信・共有ツールの活用や対話による地道な活動

各公園・緑地でのイベントはほぼ中止となったため、広報においては公園利用におけるコロナ対策情報発信・共有ツールとしてインターネットを積極的に活用した。6 月 1 日より各有料施設がオープンとなったが、札幌市の「公園施設の再開ガイドライン」に則った利用内容の発信を続け、メール等による利用者からの質問にも迅速に対応した。

今年度の公式ホームページへのアクセス数は 119,461 件で昨年比 108.7% の閲覧数となり、公式ツイッターは 3 月末のフォロワーが 4,712 人で昨年比 105.8% と 258 名増となった。また年間 3,144,038 回の閲覧数となり、効率の良い情報発信ツールとして活用を継続する。

(2) 公園の利用促進につながる自主事業と、ボランティアや教育機関との連携

公園の魅力を高め、公園資源を活用して利用促進を図ることを目的としたボランティア団体や教育機関との連携による環境学習やイベントは、コロナ対策のため中止となることが多く、特に主軸となる前田森林公園のフジの開花期に地域のボランティア組織と協力して開催する「ふじまつり」(例年参加者数 2000 人以上)や、地域団体との連携により開催していたパークゴルフ交流大会を中止するなど、不本意な結果となったが新型コロナウイルス感染拡大防止を優先するよう努めた。

冬期間は、コロナ対策をとりながらクラフト系や屋外でのクロスカントリースキー講習会を開催し好評を得た。特にスキーレンタルは、コロナ対策のオペレーションを万全とし実施した。コロナ禍の中、市民の健康づくりの場として活用いただけ過去最高の利用数となった。

■利用促進事業一覧

利用促進事業	開催時期・回数	参加者数
①カナル夏・秋清掃(春清掃はボランティア募集中止)	7 月、11 月(2 回)	25 人
②トンカチ広場(5～6 月コロナで中止、8 月 31 日雨天中止)	7～10 月(9 回)	369 人
③ふじまつり(中止)	5 月 30,31 日(2 日間)	0 人
④プレーパーク(年度内中止)	5～10 月	0 人
⑤自然観察会(6 月中止)	6～2 月(6 回)	119 人
⑥前田北小学校エゾアカガエルの自然学習(中止)	5～7 月(3 回)	0 人
⑦パークゴルフ交流大会(前田森林・中止)	7 月	0 人
⑧クリスマスリース講習会	11 月(4 回)	11 人

⑨ミニ門松づくり講習会	12月(2回)	10人
⑩スノーラフティング	1～3月(21回)	310人
⑪クロスカントリースキー初心者講習会 A・B・C	1月(3回)	62人
⑫クロスカントリースキー上級者講習会	1月(3回)	1人
⑬クロカン簡単初心者講習会	1,2月(5回)	33人
⑭歩くスキーレンタル	1～3月(61日)	2474人

2 市民・団体との協働、学校教育での公園利用への対応

札幌市の公園施設の再開ガイドラインステップⅠ以降、市民が気軽に親しみをもって公園を活用できるよう、ボランティア団体によるイベント開催や公園の資源を活かした活動を支援した。

(1) 公園フィールドでのボランティア活動

6月以降の公園施設の再開ガイドラインに則り、前田森林公園で活動するボランティア「前田森林公園凸凹クラブ」と連携して、園内植物の廃材を使った木工工作が体験できるトンカチ広場や自然観察会を7月以降開催した。また、前田森林公園クリーンボランティアのほか、一般市民の方にも、カナールを含めた公園の清掃活動に参加いただき、景観の維持に貢献していただいた。このほか、明日風公園では、花壇管理ボランティアに対して資材等を提供するなど、活動の支援を継続して実施した。

- ・前田森林公園凸凹クラブ 連携による普及事業の開催、公園イベントへの協力など(4～9月)
トンカチ広場 9回(内2回はコロナ対策で中止、1回は雨天中止) 延べ369人
自然観察会 6回(内2回はコロナ対策で中止) 延べ119人
- ・市民ボランティアによるカナール清掃 2回 延べ25人
- ・明日風フィオーレ 明日風公園花壇管理への資材(花の種子等)の提供

(2) 教育機関の公園フィールドでの活用

近隣の高等支援学校からの実習受け入れに対応・協力した。

前田森林公園

- ・北海道札幌高等養護学校 11人 8日間

星置公園

- ・北海道札幌稲穂高等支援学校 6人 6日間(内、天候による中止3日間)

(3) コロナ対策関連で中止となったもの

- ・前田北小学校3年生 エゾアカガエルの自然学習
- ・手稲プレーパークの会によるプレーパークの実施
- ・稲陵中学校職業体験

3 利用料金収入

今年度は4～5月はコロナ対策により有料施設が閉鎖となり、6月以降も感染状況等を鑑み積極的な施設利用を呼び掛けることが世情的に難しかった。野球場やテニスコートの修繕、パークゴルフ場のコース整備見直し等により収入確保に努めたが、コロナの影響による利用者減が響き前年度より7,003,665円の減収となった。

利用料金収入合計 19,529,300円(前田森林公園パークゴルフ場・野球場・球技場、星置公園野球場・テニスコート、明日風公園テニスコート、山口緑地西パークゴルフ場・東パークゴルフ場)

厚別公園

1 普及啓発・利用促進事業等

市民の健康増進及びスポーツの普及振興を図ることを目的として、各種運動教室やスポーツ講習会、トレーニングルームで使用するトレーニング器具の充実を図った。

(1) 各種運動教室の実施

上半期は、「伸び伸びスッキリ！！ヨガ教室」、「筋膜リリース」、「じんわり効きヨガ」3教室をスタート、トータル34教室とした。新型コロナウイルス感染症防止措置を取りながらの開催だったが、広報活動により予想を上回る参加があり、健康増進と施設の有効利用を推し進めることができた。また下半期は「美姿勢・椅子でピラティス教室」を新たに開講し、想定数の受講者を獲得することができた。

(2) 厚別アスリートアカデミーの運営

競技者が安心して活動できる環境づくりや、各競技の普及及び発展に貢献しながら、地域の新しいコミュニティの構築や地域振興、さらに参加者の競技力向上のみならず、心の成長も目的とした事業として、厚別アスリートアカデミー（Atsubetsu Athlete Academy）を（一社）A-bank 北海道と連携し継続運営した。事業の運営に当たっては、会員の増加を図るため利用しやすい料金への改定や無料体験会を開くなどの活動に努め会員増加を図った。

(3) スポーツ講習会等の実施

コロナ過の中でも気軽にスポーツにふれあう機会を提供するため、対策を講じつつスポーツ関連の教室を実施した。

- ・ノルディックウォーキング教室 2 名
- ・パワーマックスチャレンジ 13 名
- ・屋外投てきフィールド 50 名
- ・スプリント塾 10 名

2 市民参加・協働等

「厚別フラワーボランティア」など、市民参加・協働の機会を設け、地域の方々の積極的な公園の利活用に努めた。また、職業実習として2名を受け入れた。

- ・厚別フラワーボランティア 10 日
- ・市立札幌みなみの杜高等支援学校職業体験 2 年生1名 4 日 3 年生 1 名 13 日
- ・ラブアース・クリーンアップ in 北海道 20 名

3 他団体等との協働

小学生を対象とした札幌市の事業「ウインタースポーツ塾」実施に当たりコンソーシアム団体である（一財）札幌市スポーツ協会に設営準備等の協力を行い、冬期の競技場利活用に寄与した。

また、厚別区の「新さっぽろ冬まつり」の企画会議に参加し、広報やイベント実施に協力したほか、共催事業として「厚別公園冬フェスタ」を開催した。

- ・厚別公園冬フェスタ 63 名
- ・ウインタースポーツ塾 30 名

4 自主財源による利益還元

今年度は、（一財）札幌陸上競技協会と協議し、円滑に大会運営が行えるよう陸上備品や備品整理棚を多く購入した。

5 利用料金収入

利用料金収入合計 14,704,845 円（主競技場、補助競技場、トレーニングルーム、会議室、貸し備品）

西岡公園・西岡中央公園

1 普及啓発・利用促進事業等

西岡公園を「水と緑に恵まれた多様な生物の生育・生息地」、「環境学習の活動拠点」として、西岡中央公園を「多様な利用のできる地域の公園」として位置付け、地域や市民、専門家、ボランティア団体との連携・協働による事業展開に努めた。

(1)リアルタイムな自然情報の発信

西岡公園管理事務所の展示室では、令和2年度の新型コロナウイルスの緊急事態宣言により4月14日から5月31日まで管理事務所を閉鎖し、トイレのみ開放としたため、紹介展示は行わなかったが、公園内の自然情報については設置したホワイトボードや公式ウェブサイトにて発信を続けた。その後6月1日からの管理事務所開放後、スタッフが制作した公園で見られるハリオアマツバメやギンリョウソウ等の生物の紹介展示など季節毎に提供したほか、園内の最新自然情報を掲示板等により発信するなど、自然に親しむ目的で来園した市民のニーズに的確に対応した。下半期も引き続き、季節に合わせヒグマ、秋に見られる落ち葉や冬芽、カラ類等の紹介展示の他、冬期も西岡公園の水辺に生息するエゾウグイ、トミヨなどの淡水魚の生体展示を継続して行うなど自然への理解や関心を深めるきっかけを提供できた。また、公式ウェブサイトでも最新の自然情報等発信し、自然観察等の公園の利用促進に努めた。

(2)自然や生物に関する講座・観察会等の開催

緊急事態宣言による管理事務所の閉鎖やイベントの中止に伴い、4月中旬から6月上旬までに予定していたイベントを中止とした。4月上旬及び6月中旬からの宣言解除以降、西岡公園植物や野鳥など自然の見どころや公園の歴史を散策しながら解説する、おさんぽガイドを定員あり・予約制とし、新北海道スタイルに合わせたガイドの仕方についてガイドボランティアと勉強会を行った上で開催した。その一方で、室内の開催で利用者やボランティアの距離が接近しやすい工作イベントは7月分まで中止、自然観察系講座の開催も見送った。特定外来生物の防除活動としてオオハンゴンソウの駆除はボランティアと協働で実施し、勢力拡大の防止、自然環境の保全に努めた。工作イベントについては11月より換気しながら開催し、おさんぽガイドも10月まで定員あり・予約制として開催した。

(3)子どもの外遊びの推進

西岡公園の豊かな自然環境を生かし、子どもたちが自由な発想で遊びをつくる場として、西岡公園で活動するボランティア団体「遊木森森」と連携し、季節に応じて子どもが生み出す遊びをサポートした。新型コロナウイルス感染対策・時間短縮等を講じて8月下旬よりプレーパークを3回開催し、計157名の参加があった。この他、未就学児童とその保護者を対象とした平日開催の「ちょこっとプレーパーク」を企画・6回開催し、平日に遊べる場や保護者同士のつながりの場を提供することができた。

2 地域との連携・市民協働事業等

(1)西岡公園におけるボランティア団体の活動とサポート

西岡公園では6つのボランティア団体が活動し、各団体の活動目的は木工作、植物調査、公園ガイド、プレーパーク運営、花壇管理、ヤンマ団・さかな組の活動の指導・サポートと多岐にわたっている。各団体との間に構築された良好な関係を維持するため、継続して活動しやすい環境づくりに努め、今年度は新型コロナウイルス感染対策・時間短縮等を行いつつ、活動や様々なイベントを協働体制で開催した。

ボランティア3団体の協力により、プレーパークや自然観察、木工クラフトなど新北海道スタイルを取り組みつつ、公園の自然を活用したイベント「にしおかであそぶ日」を9月に開催し、参加者に公園と自然の魅力を提供することができた。夏以降、外遊びや外でのイベントに関しては、新型コロナウイルス感染対策・時間短縮、定員の設定、室内企画の中止等を行うことで実施することができた。大きく広報をかけることも避けたため参加者数は増加しなかったが、参加者には楽しんでいただく事ができた。

なお、新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から、4月中旬以降に開催を予定していたおさんぽガイド、ヤンマ団・さかな組の活動は6月中旬まで、子りす工房は7月分までを中止、その他例年実施していた夏期のイベントは行わなかった。夏以降も、継続して実施しているイベント以外は企画せず、秋の外遊びイベントや冬のスノーキャンドルイベントは時間短縮や室内企画するなど対策を行い実施した。

■ボランティア団体との協働によるイベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①おさんぽガイド	79 人	②にしおかであそぶ日	135 人
③にしおかで雪あそびとスノーキャンドルの日	81 人	④子りす工房	27 人

(2) 西岡中央公園における地域ボランティアとの協働

緊急事態宣言による有料・無料施設の閉鎖に伴い、多目的広場は 6 月 1 日から、パークゴルフ場は 6 月 2 日からのオープンとなったが、春先から新型コロナウイルス感染対策を行いつつパークゴルフ場のコース管理と多目的広場の管理を行う 2 団体が活動し、協働でオープン準備や園内施設の維持管理を実施したほか、オープン後も新北海道スタイルを守りながら維持管理等を行った。今年も利用者の意見・要望等を聴取し、管理や活動に役立てるよう努めた。

3 環境教育・自然環境の保全・調査

西岡公園の多様な水辺の生きものを対象とする「西岡さかな組」と、一湖沼におけるトンボの種数が北海道で一番多いとされる西岡公園でのトンボを対象とした「西岡ヤンマ団」について、子どもたちによる 1 年間の調査活動参加者を募集し、それぞれ調査の実施から成果を公開する活動報告展・展示解説までを年間プログラムとして設定して活動した。今年度は 4 月から 5 月まで活動を中止、6・7 月は午前中の野外活動のみ行い、8 月以降は昼食を挟んで 1 日の活動を行った。外での活動時は 3 密を回避、施設内では換気を行い活動した。

活動報告展について今年度は 3 会場とも実施したが、例年行っている団員による会場設営や展示解説は中止した。

これらの活動は、専門家や子ども達の保護者、西岡さかな組と西岡ヤンマ団を卒業した中高生がボランティアスタッフとして指導や運営のサポートに関わることで、環境教育活動の促進や、環境保全の啓発等につなげることができた。

今年度も冬期に新しいルートの新木道の設置が行われており、昨年度行われた湿地環境の保全や利用者の安全を目的とした旧木道の撤去後の様子を含め、自然環境の変化に今後も留意していく。

■西岡さかな組・ヤンマ団の活動

団体名	活動日数、延べ人数	活動内容
西岡さかな組	8 日、64 人	水生生物の調査
西岡ヤンマ団	8 日、60 人	トンボの調査、標本作り

4 利用料金収入

今年度は 6 月 1 日からの開放となり、上半期の合計の収入は前年度同期に比べ減っているが、利用状況に合わせた点検、清掃を行うなど、利用促進に努めた他、好天にも恵まれ 8・9 月の利用が増え、第 2 四半期のみの比較では若干下回る結果だった。10 月以降も好天と新規利用者の増加により利用が好調となり、結果的には 4・5 月分を差し引いた利用料金計ではほぼ前年と変わらない収入となったものの、減収となった。

利用料金収入 581,760 円(西岡中央公園テニスコート)

札幌市豊平川さけ科学館

1 普及啓発・利用促進事業等

豊平川や琴似発寒川、星置川などの身近な川に遡上・産卵するサケをより多くの市民に見ていただくため、観察会の実施やインターネットによる観察情報の発信、河川でのサケ観察につながる展示解説を館内で実施し、豊かな自然体験が市民の心の財産となるよう、普及啓発に努めた。また、市内に生息する水辺の生き物の展示などにより、サケに限らない生物多様性の保全につながる教育普及活動にも積極的に取り組んだ。

(1) 市民にとって魅力あるさけ科学館づくり

1) 楽しく見学し、学べるさけ科学館

サケや市内に生息する水辺の生き物等を、子どもでも楽しく学べるように、親しみやすいキャラクターを活用し、分かりやすく伝える展示物の作製や解説を行った。また、サケ親魚・受精卵・発眼卵・稚魚をより多くの方に見ていただけるよう、それぞれの展示期間の調整に努めた。入館者数は、新型コロナウイルスの影響で4月14日から5月31日までの臨時休館などもあり、前年度比64.9%の32,906人となった。個人・団体入館者が減少しているが、団体予約の申し込みは市内及び近郊の利用者が少しずつ増えている。

2) サケの魅力を生かしたイベント・学習の実施・情報発信

4月・5月中に予定していたイベントについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全て中止とした。6月以降に予定していたイベントは、新型コロナウイルス対策を講じて、ほぼ予定通り実施した。9月の大きな集客イベントである「サケフェスタ」は新型コロナ感染拡大防止のため中止し、その代わりとして「サケとふれあうミニイベント」を小規模で開催し、当日は親子連れを中心に1,412人の来館者があった。

サケ学習の指導・協力としては、東白石小学校や東橋小学校等に対して、サケの遡上観察、人工受精の学習をサポートした。

3) その他の教育普及イベントの実施

サケや水辺の生き物に興味を持っていただくために、来館者が事前の申込みなしで気軽に参加できるものから、じっくりと学ぶことのできる実習まで、多様なニーズに対応した各種体験イベントを、新型コロナウイルス感染防止対策を施して、3密にならないよう気をつけて企画・実施した。

■体験イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
サケたちのエサやり体験(12回)	520人	サケタッチプール(5回)	552人
知る・見る、カニさん、ザリガニさん	53人	琴似発寒川サケ観察会(2回)	239人
真駒内川さかなウォッチング	22人	星置川でサケを見よう	46人
星置川さかなウォッチング	17人	豊平川サーモンウォッチング	27人
琴似発寒川さかなウォッチング	25人	サケの採卵実習	29人
公開さかな調査	18人	サケの人工授精体験(3回)	142人

(2) 他団体と連携した活動

1) 地域連携を軸とした、開かれた施設管理と活動の推進

水辺環境の情報を広く発信するため、地域住民・団体・大学・行政及び研究機関との連携を進め、運営の活性化に努めた。また、相手先の団体等が実施するイベント・講座等にもできる限り協力するように努めた。

実習やイベント、飼育、調査などをサポートする「さけ科学館ボランティアの会」は34年の歴史を有し、現在も学生等にとっては社会勉強の場として、一般市民には生涯学習や地域社会への参加の場として、有意義な活動を継続して行っている。

2) 市民団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」と連携した、豊平川の野生サケ保全活動への取組

過去の調査により、約7割の個体が自然産卵由来の「野生サケ」であることが判明した豊平川において、市民団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」と連携して、野生サケの優先的保全に継続して取り組んだ。サケ稚魚の放流数をいったん減らし、野生魚と放流魚(耳石温度標識を施標)の割合を継続的にモニタリングして順応的に管理する手法を導入し、調査を継続している。

2 調査・研究等

(1) サケ遡上親魚の捕獲・産卵状況調査

サケの遡上状況の確認のため、一部のサケ親魚を網等で捕獲し、体長・年齢などを記録した。また、河川での産卵状況も併せて調査し、産卵箇所の数からサケの遡上数を推定した。調査と並行して、産卵場所・周辺の状況を巡視確認し、豊平川やその他市内河川でのサケ産卵環境の把握に努めた。

調査の結果は、サケの観察情報として HP や館内掲示等で随時公開したほか、河川内の工事に先だって、サケへの影響に配慮した工法・期間等を検討する際の基礎資料としても活用された。

■サケ遡上・産卵状況調査の結果

河川	産卵数	推定遡上数	河川	産卵数	推定遡上数
豊平川	788 箇所	1,576 尾	星置川	40 箇所	80 尾
琴似発寒川	188 箇所	376 尾			

(2) 札幌の水生物等の生息状況調査

札幌市内・周辺の水辺において、生物の生息状況の調査を継続的に実施した。調査にあたっては、地域住民や活動団体、他分野の研究者などと積極的に連携し、また、水辺を含む広い視点での環境の把握に努めた。

60 地点で調査を実施し、計 33 種の魚類・甲殻類を確認した。開館当初から 35 年以上に及ぶ調査の結果は随時整理・公開し、札幌の水辺における生物多様性保全に向けた基礎資料として活用した。

2020 年 4 月 10 日に、「両爬の生態系をかんガエル札幌市南区チーム(かんガエル)」による国内外来種「アズマヒキガエル」の防除作業に協力し、情報を共有した。

2020 年 7 月 22 日及び 8 月 19.20 日に、札幌市環境局環境都市推進部環境管理担当課及び北海道大学地域科学研究室による豊平川石山大橋付近の生物相調査及び特定外来生物の「ウチダザリガニ」調査に協力し、情報を共有した。

(3) 大学・研究機関等の調査・研究等への協力

大学や研究機関等からの調査・実習等への協力、調査記録の提供等、計 34 件の依頼があった。これらに対して積極的に対応し、また、研究等の成果をさけ科学館の教育普及に活用した。

主な協力先:札幌市(下水道河川局河川事業課、環境局環境管理担当課、円山動物園)、北海道開発局、札幌河川事務所、下水道科学館、北海道大学、東海大学、札幌大学等

月寒公園・吉田川公園

1 普及啓発・利用促進事業等

月寒公園パークライフセンターは、公園利用者の休憩スペースとして開放しているが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、4月14日から5月31日まで、臨時休館した。開館後も、室内の換気や、定期的な消毒の他、テラスに休憩用のテーブルやイスを増設するなどして、ソーシャルディスタンスを確保しながら、楽しんでいただけるように工夫した。

イベントについては、新型コロナウイルス感染拡大防止策をとったうえで、屋外で開催できるイベントから、8月下旬以降順次開催した。対策へ最大限に配慮し開催したイベントは、例年に比べ参加者の反応も良く、コロナ禍において屋外のイベントは、市民の気分転換の一助となっていることが伺えた。

(1) 幼児向けイベントの開催

月寒公園の利用が多い、未就学児親子を対象として企画した「プレーリヤカーで遊ぼう!」は、申込不要で自由に参加できるスタイルが好評で、20名/回以上の参加があった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々なイベントが中止になる中、未就学児親子が参加できるイベントも減少しており、屋外で安心して子どもが遊べ、お母さんたちものんびりくつろげるプレーリヤカーは、リピートする参加者も多く、公園利用者のニーズに合ったイベントとなった。

(2) 多様なイベントの開催

月寒公園の再整備のコンセプトである「パークライフ」に基づき、様々な市民団体と連携して、つながりから生まれる多様な公園活動を推進した。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	回数	参加者数
① おやこでわくわく月さむぼ〜うたとえほんともりあそび	3回	55人
② つきさむパークヨガ	2回	13人
③ クラフト体験	29回	522人
④ ピクニックコンサート	1回	150人
⑤ プレーリヤカーであそぼう!	11回	361人
⑥ 野の花を植えよう	1回	18人
⑦ ノルディック・ウォーク体験会	1回	13人
⑧ パークゴルフ大会つきさつ杯	1回	32人
⑨ つきさむプレーパーク	5回	93人
⑩ リースをつくろう	1回	6人
⑪ パークライフカフェキタツネ	1回	30人

(3) 北海道大学と連携したキツネの生態調査と普及啓発活動

月寒公園には、野生動物のキタキツネが生息しているが、今年度より人馴れ行動が見られ、「餌付けをしている人がいる」などの苦情も挙げられた。エキノコックス症を心配する声も上がっていることから、キツネの研究者である池田貴子特任助教(北海道大学高等教育推進機構 CoSTEP)の研究の一環として、令和2年12月より、野生動物の自動撮影カメラによる生態調査を開始した。普及啓発活動としては、キタキツネをテーマにしたワークショップを開催し、生態調査の報告を行った。キタキツネに対する市民の関心は高く、定員を上回る30人の参加があった。また、北大と協働で、キタキツネやエキノコックス症対策についてまとめた動画を作製し、月寒公園のホームページで閲覧できるようにするなど、市民に向けた普及啓発活動を積極的に推進した。

2 市民団体・活動団体との連携、市民協働

(1) 月寒公園市民協議会(月寒公園ファンクラブ)との連携

再整備を検討する経緯の中で市民により設立された月寒公園ファンクラブと共催で、今年も季節ごとに3つの大規模イベントを計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「カルチャーナイト」と「あそんドル」は中止、「月寒公園ピクニック」は、密を避けるために屋外のコンサートのみ実施した。

■月寒公園ファンクラブとの共催事業一覧

イベント名	活動内容
①カルチャーナイト 2020	例年、室内のコンサートを開催しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。
②月寒公園ピクニック	「ピクニックコンサート」と題して、屋外のコンサートを10月4日に実施した。
③あそन्दル！～つきさむこうえんで雪あそびとスノーキャンドル	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。

(2) ボランティアとの連携

月寒公園では、シバザクラエリアの除草や花壇の管理を行うボランティアを支援した。また、新たに近隣の就労支援施設や、プレーパーク団体が新規ボランティア登録をした。吉田川公園では、パークゴルフ場のコース管理と多目的広場の管理を行う2団体が活動し、協働で園内施設の維持管理を実施した。

■ボランティア団体による活動一覧

団体名	登録人数	活動内容
月寒公園ボランティア会	9人	シバザクラエリアの除草、花壇の管理
月寒プレーパークの会	5人	プレーパーク等子ども向けイベントの開催
豊平コネクトワークス	6人	就労支援施設による植物管理、ゴミ拾い等
東月寒レオンズ (吉田川公園多目的広場ボランティア)	3人	多目的広場の管理運営
吉田川公園パークゴルフ振興会	4人	パークゴルフ場の管理運営

3 利用料金収入

利用料金収入合計 7,327,140 円

(月寒公園野球場(坂下・高台)・テニスコート・パークゴルフ場・貸ボート、吉田川公園テニスコート)

旭山記念公園

1 普及啓発・利用促進事業等

札幌市街地を一望できる眺望と、札幌市内でありながら豊かな自然環境がある当該公園を活かした、多様な環境教育事業を企画して市民団体や近隣教育機関等と協働で実施するとともに、公式ウェブサイト等によるタイムリーな野鳥情報等の発信を行うことで、公園の利用促進、環境教育、みどりの普及啓発に取り組み、公園の魅力向上に努めた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、札幌市の指示のもと4月から5月末にかけて森の家・レストハウスを臨時休館したほか、駐車場(5/2から5/25まで)、遊具(5/2から5/31まで)、噴水と徒渉池(年度内)を閉鎖および休止した。

(1) 自然豊かな環境を生かした環境教育の場の提供

市街地に近い場所にあり、気軽に豊かな自然が楽しめる環境であることから、森林浴やバードウォッチング等で近隣や市内から幅広い方に利用された。特に今年度は年間を通して来園者の増加が著しかった。7月以降、野鳥観察会・自然観察会など、3密を回避しやすい屋外でのイベントを再開した。近年シマエナガをはじめとした野鳥の人気とともに、当該公園でもバードウォッチャーが増加してきており、野鳥に関する環境教育事業として、定例の野鳥観察会のほか、野鳥と関連づけた樹木観察会を開催した。また園内を散策しながらノルディックウォーキングを学ぶノルディック・ウォーク体験講習会を開催した。

(2) 生物多様性を保全する活動の推進

近隣小学校の依頼で、当該公園の歴史や自然環境を調査して学校新聞を作成する総合学習「旭山ウォーカー」に協力した。身近な公園を通して豊かな自然環境等を学ぶ内容で実施し、環境保全の意識啓発を図ることができた。また4年目を迎えた自然調査体験プログラム「森のたんけん隊」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月から6月までと屋内の活動時間が増える12月から3月までの活動を中止したが、7月から11月までの5回、定員や開催時間を縮小して開催した。昨年「里山作り」をテーマに、巨木の谷で外来種のニセアカシアの伐採や除草等の整備を行っており、今年もニセアカシアのひこばえ処理や、昨年植樹したイタヤカエデ等の苗木の計測などを行うことで、引き続き当該公園を活用した生物多様性を保全する活動に取り組んだ。

(3) 公園の特徴を生かした広報活動

公式ウェブサイトでは自然・野鳥情報、施設情報、環境教育事業等のイベントの告知・活動報告等について181件発信し、閲覧回数は142,762件となった。昨年度実績比が約137%で大きく増加しており、野鳥や利活用の情報源として広く活用していただくことができた。また昨年度の3月から開始した野鳥の動画配信を引き続き公開し、家に居ながら野鳥観察を楽しめるコンテンツを提供することができた。

(4) 社会福祉への貢献

昨年度から新規の福祉団体にレストハウスの管理運営を委託しており、障がい者の自立に向けたサポートを行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、レストハウスは営業開始予定日の4月25日から5月31日まで臨時休館したが、併設トイレは通常通り開放し、定期清掃と点検を委託することで、雇用の場を継続して確保するよう努めた。

■ 普及啓発・利用促進イベント一覧

イベント名	参加者数	活動内容
野鳥観察会(15回)11回分中止※	264人	旭山記念公園を散策しながら野鳥のガイドを行う。
自然観察会(5回)2回分中止※	53人	旭山記念公園および旭山都市環境林を散策しながら植物や昆虫などのガイドを行う。
バードウォッチャーのための樹木観察会(2回)	34人	旭山記念公園で見られる樹木
森のたんけん隊(5回)7回分中止※	44人	旭山記念公園および旭山都市環境林で、参加する子どもたちが中心となって自然調査を行う。
ノルディック・ウォーク体験講習会(1回)	2人	ノルディック・ウォークの基礎を、座学と園内を散策して学ぶ。

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

2 市民参加・協働等

当公園を拠点に自然環境プログラム等の活動を展開する市民団体「旭山記念公園市民活動協議会」およびその登録団体と密接に連携し、近隣小学校との連携事業「旭山ウォーカー」や「森のたんけん隊」等の環境教育事業に共催・協力して実施することで、利用促進と環境保全の啓発を行った。例年共催・協力しているイベント「WONDER FOREST IN さっぽろ」、「星空観察会」、「旭山にスノーキャンドルの灯りをともそう」、「旭山冬のフェスティバル」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、また感染症対策が難しいことから中止した。また森の家は、感染症対策を順守しながら札幌まるやま自然学校、札幌太陽中央こども劇場等の登録団体による交流会や自然学習・遊びの拠点として利活用された。

■市民協議会との共催事業一覧

イベント名	参加者数	活動内容
①旭山森のフェスティバル「秋の森さんぽ in 旭山」	11 人	園内を散策しながらネイチャーゲームを行う。
②緑丘小学校連携事業「旭山ウォーカー」	約 150 人	近隣の緑丘小学校 4 年生の総合学習授業に協力する。 (当該公園の歴史や自然などについての講演、現地学習の協力)
③WONDER FOREST IN さっぽろ		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。
④星空観察会		
⑤旭山にスノーキャンドルの灯りをともそう		
⑥旭山冬のフェスティバル		

3 その他

当該公園は指定管理の最終年度で、令和 3 年度から令和 7 年度までの指定管理者が公募され、令和 2 年 10 月 9 日付で、当協会が代表団体を務める「旭山記念公園みどりコンソーシアム」が指定管理者候補者として再選定された。その後、令和 2 年 12 月の札幌市議会の議決により、正式に指定管理者に指定された。

他 1 国営公園等受託事業

滝野すずらん丘陵公園運営維持管理業務の代表団体として、公園・園内施設の利用対応、イベント等の企画・実施のほか、管理計画に従い植物・園内施設等の維持管理業務を実施した。

1 滝野すずらん丘陵公園運営維持管理業務の総轄

- (1) 園内の総務・経理事務
- (2) 入園料の徴収事務
- (3) 植物管理・施設管理・園内及び建物清掃
- (4) ヒグマ対策 園内侵入防止対応、外周柵監視、巡回点検、侵入時対応、利用者への周知・対応等
- (5) 入園者数 年間入園者数 244,793 人(目標値 542,000 人の 45.2%)

※新型コロナウイルス緊急事態宣言に基づくグリーンシーズン開園の延期、また5,6,9月のヒグマ園内侵入により、臨時閉園が延べ97日間となった。また、その後も新型コロナ感染防止対策に基づき施設利用やイベントを制限せざるを得ず、さらに冬季には記録的な少雪のためスキーゲレンデの利用開始が大きく遅れるなど利用できるアクティビティが制限される等の影響もあったことから目標値を大幅に下回った。

2 利用指導及び利用サービス等

(1) 利用促進事業

すずらんメール：冬季のみ発行(全4回予定) ※新型コロナの影響、及び感染防止対策によるイベントチラシ(新聞折込広告)：5月実施予定を中止 ※新型コロナによる臨時閉園のため
映画「クレヨンしんちゃん」とタイアップによる公園 PR 9月26日～10月12日
映画「鬼滅の刃」公開前広告での公園 PR 実施 10月16日～11月12日
札幌市内スキー場連携テレビ CM 実施(HBC・UHB)12月～2月
第1回米そり選手権参加者募集告知 CM(UHB)1月18日～1月31日

(2) ボランティア活動

- ① フラワーガイドボランティア 登録26名(延べ245名)、活動86日間

グリーンシーズンの開園が延期となり、植物管理の活動も6月以降からの開始となった。7月の開園後も、ガーデンツアーは参加者多数となるおそれがあるため今年度は中止し、感染防止対策実施の上でガーデン等の見どころで来園者へのスポット解説を実施した。

- ② 滝野の森クラブ 登録50名(延べ1,044名)、活動112日間

6月以降に田植えや植物調査から活動を開始し、7月の開園後は感染防止対策ができる範囲で各種活動を行った。森の情報館では植物標本展示等の開催、開花情報の更新作業を行ったほか、秋には活動範囲を拡充し園内溪流ゾーンや中心ゾーンを回る研修ツアーを実施した。

冬季も引き続き感染防止対策をしながらスノーシューツアーや雪あそびなどのイベントを実施し、2月には「たきの森フェス」でたき火を使った体験プログラムを行った。

(3)主なイベント

- | | |
|-------------------|------------|
| ① 滝野の森“野外”昆虫博物館 | 8月8日～8月18日 |
| ② DRIVE IN HANABI | 8月23日 |
| ③ 滝野スポーツチャレンジ | 9月27日 |
| ④ ミライハナビ | 10月31日 |
| ⑤ ウインターマラソン | 1月17日 |
| ⑥ 冬のスポカル | 2月7日 |
| ⑦ 第1回北海道米そり選手権 | 2月11日 |
| ⑧ たきの森フェス winter | 2月21日 |
| ⑨ 滝野公園歩くスキー大会 | 2月23日 |

※ 以下のイベント等は中止(コロナ・ヒグマの影響による臨時閉園や感染防止対策のため)
パンジー・ビオラ collection(4月下旬～)、シラネアオイと春の野の花まつり(5月中～下旬)、
チューリップ・すずらんフェスタ(5月中旬～6月上旬)、北海道キャンピングフェア(5月16・17日)
森フェス～2020Summer～(7月12日)、道民・市民歩くスキーの集い(1月24日)、
道央雪合戦チャンピオンカップ(2月20・21日)、XC スキースプリントレース大会(3月7日)

収 1 公園施設等附帯収益事業

公園緑地・施設利用者の利便性と市民サービスの向上及び継続的な公益目的事業の展開とその充実に資するため、公園緑地・施設内における便益施設の運営等を行った。

1 常設売店の運営

公園施設等で売店施設を運営し、オリジナル商品の販売や、公園緑地の多目的利用をサポートする備品の貸出し等を行った。また、百合が原公園、豊平公園、川下公園等では、札幌市の気候条件と季節に合った鉢花や、植物等に関する書籍、園芸用品等を販売した。

(1) 営業場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、手稲稲積公園、前田森林公園、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、オンライン・ショップ

(2) 商品

鉢花等植物、園芸用品、オリジナルグッズ、スポーツ用品、用具レンタル（スポーツ用品、照明器具、音響設備、楽器）等

(3) 収入金額

14,635,712 円

2 臨時売店の設置運営

売店施設のない公園緑地及びイベント開催時等に臨時売店を設置し、営業した。

(1) 営業場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、前田公園、前田森林公園、山口緑地、創成川公園、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、豊平川緑地

(2) 商品

飲食物、植物、絵葉書、しおり、その他公園施設関連商品等

(3) 収入金額

7,041,308 円

3 自動販売機の設置運営

公園緑地・施設に自動販売機を設置し、清涼飲料水、冷菓等を販売した。

(1) 設置場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、発寒西陵公園、手稲稲積公園、北発寒公園、前田森林公園、明日風公園、山口緑地、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、西岡中央公園、清田公園、東雁来公園

(2) 収入金額

22,309,584 円

評議員会及び理事会の開催等

(以下は全て承認・議決された)

評 議 員 会

- みなし決議(令和2年6月15日付け)
 - 令和元年度(2019年度)決算承認の件
 - 理事選任の件
 - 評議員選任の件
- みなし決議(令和3年3月30日付け)
 - 評議員選任の件

理 事 会

- みなし決議(令和2年4月1日付け)
 - 専務理事選定の件
 - 専務理事の報酬月額の件
- みなし決議(令和2年6月8日付け)
 - 令和元年度(2019年度)事業報告承認の件
 - 令和元年度(2019年度)決算承認の件
 - 理事候補者推薦の件
 - 評議員候補者推薦の件
 - 令和2年度(2020年度)定時評議員会における決議の取扱い及び提出議題の件
- みなし決議(令和2年7月1日付け)
 - 理事長選定の件
 - 理事長の報酬月額の件
- 令和2年度(2020年度)第1回理事会(令和3年3月22日開催)
 - 議 題 報告事項
 - 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告の件
 - 決議事項
 - 令和3年度(2021年度)事業計画書及び収支予算書の承認の件
- みなし決議(令和3年3月23日付け)
 - 評議員候補者選任の件

令和2年度事業報告

令和2年度事業報告には重要な事項について全て詳細に記載し網羅している。

よって「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款第8条第1項第2号に定める事業報告書の附属明細書はない。